

# フリーランスの開業動機とパフォーマンス\*

日本政策金融公庫総合研究所グループリーダー

藤井辰紀

## 要旨

雇われない働き方、フリーランスが近年にわかに注目されている。副業やクラウドソーシングなどが広がるなかで、その経済規模は拡大傾向にある。一方で、立場の弱さや収入の不安定さゆえに、フリーランスを保護すべき対象とみなす動きも目立つ。いわば光と影の両面が交錯するなかであって、評価が定まっていないのが現状である。

本稿では、日本政策金融公庫総合研究所「フリーランスの実態に関する調査」の結果を用いて、二つの観点から分析を行った。一つは開業動機である。フリーランスのなかには適当な勤務先がみつからなかったからその道を選んだ人たちがいる。こうした「不本意型フリーランス」の実態を探った。もう一つは、パフォーマンスである。先行研究によると、フリーランスは、勤務者や正社員雇用企業の経営者と比べて収入が低い傾向にある。これは、属性や労働時間の短さに起因するものなのか、あるいはそうした条件をそろえてもなお、格差は残るのか。そして収入の多寡には何が影響を与えるのか。

分析の結果明らかになったのは、次のとおりである。まず、フリーランスの開業動機をみると、不本意型が2割弱を占める。不本意型の満足度は低いものの、収入が少ないわけではなく、フリーランスという働き方は、生活を維持するための社会保障システムの一つとして機能していると評価できる。ただし、属性や働き方をそろえたとしても、フリーランスは正社員雇用企業に比べれば収入が少ない傾向にある。また、収入の多寡に影響を与える要因をみると、販売価格の安さはマイナスに、人的ネットワークはプラスに、有意に働いていることがわかった。

今後、フリーランスはさらに広がりを見せていくと考えられる。働き方を自分で決められる自律性が強みではあるものの、すべてが思いどおりにいくわけではない。思うに任せない状況を自己責任の一言で片付けるのではなく、あるいは一律に手厚く保護するのでもなく、個々の状況に応じて適時適切に支援を受けることのできる、セーフティネットのような支援のあり方をデザインしていくことが求められている。

\* 本稿は筆者が日本政策金融公庫総合研究所・村上義昭主席研究員（現・大阪商業大学教授）と共同で実施した調査「フリーランスの実態に関する調査」（2017年）の結果を再分析したものである。また、本稿の作成に当たっては、慶應義塾大学商学部・山本勲教授からご指導をいただいた。ここに記して感謝したい。ただし、ありうべき誤りはすべて筆者個人に帰するものである。

## 1 問題意識

雇われない働き方、フリーランスが近年注目されている。副業やクラウドソーシングなどが広がるなかで、その経済規模は拡大傾向にある。クラウドソーシングの仲介大手であるランサーズが実施した「フリーランス実態調査2018年版」によると、2018年時点のフリーランスの経済規模は20.1兆円で、2015年の14.3兆円から1.4倍に拡大した。

フリーエージェント社会というテーマが話題を呼んだPink (2001) が「大勢のアメリカ人が、産業革命の最も大きな遺産の一つである『雇用』という労働形態を捨て、新しい働き方を生み出している」と述べ、「力の所在は、組織から個人へと移り始めている」と断じてから15年あまりが経つ。わが国でもフリーランスの存在意義が広く認識されつつある。

一方で、立場の弱さや収入の不安定さゆえに、フリーランスを保護すべき対象、いわゆる周縁化された労働者 (marginalized worker) (Mangan, 2000) とみなす動きも目立つ。公正取引委員会 (2018) は「人材と競争政策に関する検討会」の報告のなかで、雇用契約によらずに働く個人事業主に対して独占禁止法を適用するための方向性を示した。

いわば光と影の両面が交錯するなかであって、評価が定まっていないのが現状である。そこで日本政策金融公庫総合研究所は2017年に「フリーランスの実態に関する調査」を実施し、フリーランスの働き方や満足度に関するレポートにまとめた (藤井・村上、2018)。しかし、そのなかで十分に明らかにしきれなかったことも少なくない。本稿では、そのうち、次の2点について追加的に分析を行う。

一つは、現在の仕事を選んだ動機 (以下、開業動機<sup>1</sup>という) である。先行研究によると、フリーランスの満足度は比較的高く、その要因には、自ら働き方を選ぶことのできる自律性 (autonomy) がある (Pink, 2001; Mulcahy, 2016; 藤井・村上、2018など)。組織に縛られない分、思うように働けるという理屈だ。ただし、そこには、自らが望んでフリーランスの道を選んだ場合、という前提がある。実際は、そうともいえないケースもあるだろう。適当な勤務先がみつからず、やむなくフリーランスの道を選んだ人もいるはずだ。こうした「不本意型フリーランス」は、どのくらいいるのか。また、本意型と不本意型では、その後の満足度に違いが出るのか。

もう一つは、パフォーマンスについてである。藤井・村上 (2018) によると、フリーランスの収入は、それ以外の企業経営者と比べて低い傾向にある。仕事の内容や働く時間帯といった要素には自由が利いても、収入ばかりは思いどおりにいかない。顧客や競合他社など、相手のある話だからだ。もっとも、フリーランスのなかにも、多くの収入を得ている人はいる。収入の低さは、自律性の代償だと決めつけるのは早計だ。では、どのような要素が収入の多寡に影響を与えるのか。

つまり、本稿における視線は、一言で表せば、本質的には自律性を有するはずのフリーランスでさえも思うようにならない側面、すなわち「自律性の射程外」に向いている。構成は、以下のとおりである。第2節では、本稿で分析に用いる日本政策金融公庫総合研究所「フリーランスの実態に関する調査」(2017年) の概要について紹介する。第3節では、本稿の問題意識に関連する先行研究を概観する。第4節では、本稿の分析のねらいと仮説を述べ、第5節では分析結果を示す。第6節は、その分析結果を踏まえた結論である。

<sup>1</sup> 事業を承継するかたちで現在の仕事を始めた人もいるが、表-3で後述するとおり2.9%と極めて少数派であることから、「開業」という言葉を用いた。

表－1 業種（正社員規模別）

(単位：%)

		フリーランス (n=951)		正社員 1～4人 (n=235)	正社員 5～19人 (n=237)
			例 示		
建設業	20.7		一人親方	32.3	29.5
製造業	9.3		構内下請け、工芸品作家	7.2	14.8
情報通信業	10.2		常駐エンジニア	8.1	10.5
運輸業	7.7		個人タクシー、赤帽	5.1	8.0
卸売業	3.8		営業代行（代理商）	8.1	8.4
小売業、飲食店	9.6		ネットショップ	8.1	5.1
医療、福祉	1.5		訪問歯科	0.9	0.4
教育、学習支援業	3.3		講師	0.9	0.4
物品賃貸業、不動産業（不動産賃貸業を除く）	2.5		不動産ブローカー	3.4	3.0
消費者向けサービス業	12.8		出張美容師、ネイリスト、便利屋	9.8	6.8
事業所向けサービス業	15.6		設計、デザイナー、コンサルタント、ライター	12.3	11.0
その他	3.2		保険代理業	3.8	2.1
合 計	100.0		－	100.0	100.0
ハーフィンダール指数	0.122		－	0.160	0.154

資料：日本政策金融公庫総合研究所「フリーランスの実態に関する調査」（2017年）（以下同じ）

(注) ハーフィンダール指数とは構成比の2乗を合計したものである。値が小さいほど集中度が小さいことを意味する。

## 2 調査の概要

本題に入る前に、本稿の分析に用いる調査の概要と主な結果について、藤井・村上（2018）をレビューする。

アンケートは、2段階で実施した。調査対象を絞り込むための事前調査と、絞り込んだ調査対象者に対して具体的な質問を行う詳細調査だ。インターネット調査会社の登録モニターに対してウェブ上で回答を求める手法を採った<sup>2</sup>。

フリーランスの定義は、「消費者向け店舗を構えておらず、正社員を雇用していない企業」とした<sup>3</sup>。フリーランス性の本質は働き方における制約の小ささにあり、消費者向け店舗や正社員の存在

はこの制約の度合いを高めると考えたからである。詳細調査で調査対象としたのは、フリーランスのほか、同じく消費者向け店舗をもたないビジネスでありながら正社員を雇用している小規模な企業（以下、正社員雇用企業という）である。規模間の比較もできるよう、正社員1～4人と5～19人の2グループに分けている。なお、家族従業員の有無や組織形態（個人か法人か）は不問とした。

業種をみると、フリーランスでは「建設業」の割合が20.7%と最も大きく、次いで「事業所向けサービス業」（15.6%）、「消費者向けサービス業」（12.8%）となっている（表－1）。業種の分布を正社員雇用企業と比べると、フリーランスは最層である「建設業」の割合が相対的に小さく、代わりに2番目以下の業種の割合が相対的に大きく

<sup>2</sup> 調査の実施要領は、藤井・村上（2018）を参照されたい。

<sup>3</sup> フリーランスの定義に、統一的なものがあるわけではない（中小企業庁編、2015）。中小企業庁編（2015）では「小規模事業者の中でも、特に、常時雇用する従業員がおらず、事業者本人が技能を提供することで成り立つ事業を営み、自分で営んでいる事業が『フリーランス』であると認識している事業者」を、ランサーズ「フリーランス実態調査2018年版」では自営業者や副業の勤務者などを含む四つのタイプを合わせたものを、フリーランスと呼んでいる。

図-1 開業する際に重視したこと (正社員規模別)

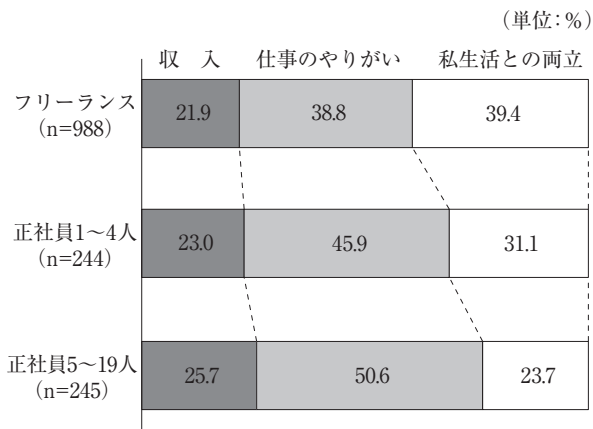
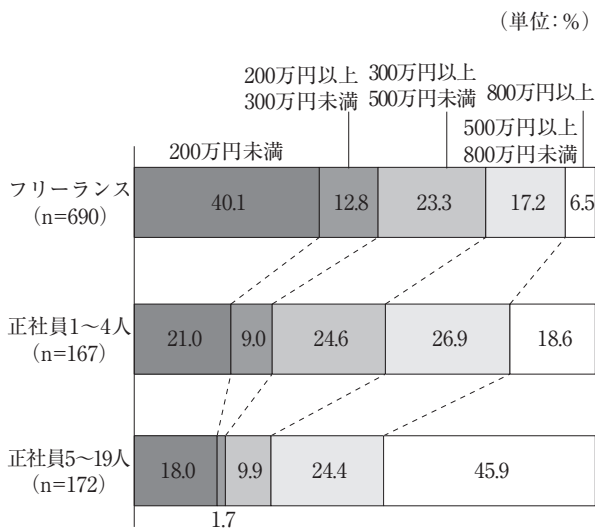


図-2 事業から得ている年収 (正社員規模別)

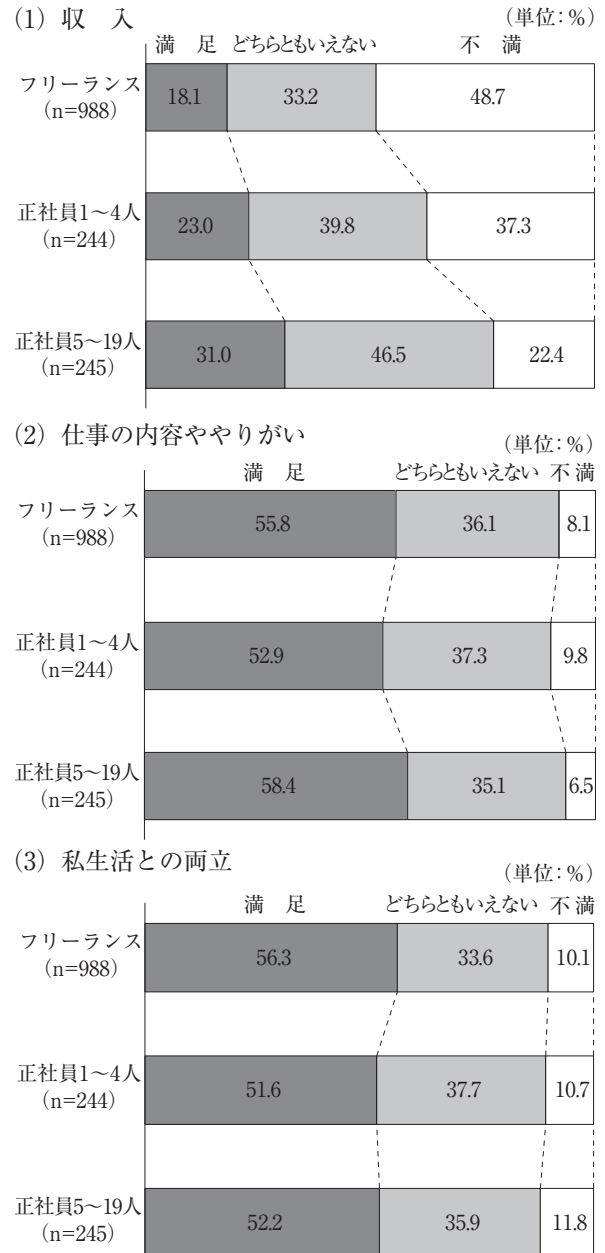


なっている。集中度の大きさを示すハーフィンゲル指数を計算すると、フリーランスは正社員1~4人、正社員5~19人よりも値が小さい。すなわち、業種のばらつきは大きい。

開業する際に重視したことについてみると、正社員5~19人の企業では、「仕事のやりがい」を挙げる企業が50.6%と過半を占める(図-1)。一方、フリーランスでは、「私生活との両立」を挙げる割合が39.4%と最も大きく、次いで「仕事のやりがい」(38.8%)、「収入」(21.9%)の順となっている。

収入は正社員雇用企業に比べて少なめだ。事業

図-3 満足度 (正社員規模別)



(注)「満足」は「かなり満足」と「やや満足」の合計、「不満」は「かなり不満」と「やや不満」の合計。

から得ている年収をみると、フリーランスでは「200万円未満」が40.1%と最も多く、「800万円以上」は6.5%にとどまっている(図-2)。正社員5~19人で「800万円以上」の割合(45.9%)が「200万円未満」の割合(18.0%)を上回っているのは対照的である。

だからといって、フリーランスの満足度が低いわけではない。図-3で示すように、収入、仕事

表－２ 事業を始めて良かったこと（フリーランスのみ、類型別、複数回答）

(単位：%)

	収入重視型 (n=216)	仕事重視型 (n=383)	生活重視型 (n=389)
収入関連	39.4	26.9	14.9
収入が予想どおり増加	25.9	10.4	7.2
自由に使える収入を得た	19.4	15.4	10.8
収入が予想以上に増加	8.3	5.0	1.5
仕事関連	53.2	75.7	53.0
経験・知識や資格を生かした	27.3	44.9	21.6
思いどおりに仕事できた	31.5	44.6	31.9
趣味や特技を生かした	8.8	26.4	20.8
技術やアイデアを事業化できた	6.5	20.9	8.0
事業経営を経験できた	13.0	18.8	8.7
生活関連	53.2	58.2	75.3
時間に余裕のある生活ができた	32.9	36.8	47.3
個人生活を優先できた	15.7	23.8	44.5
空いている時間を活用できた	14.8	17.0	23.4
転勤がない	16.7	13.3	17.0
自分や家族の健康に配慮できた	6.0	7.3	15.4
育児・介護にかかる時間を増やせた	3.7	3.1	11.8
その他	0.5	1.0	0.0
とくにない	17.1	10.2	17.0

(注)「収入関連」「仕事関連」「生活関連」の数値は、それぞれの選択肢群のうちいずれか一つ以上の選択肢を回答した割合。

の内容ややりがい、私生活との両立の3項目についてそれぞれ満足度を尋ねたところ、満足（「かなり満足」と「やや満足」の合計）と答えた人の割合は、収入こそフリーランスが正社員雇用企業を下回っているが、残る二つの項目については、ほとんど遜色のない結果となった。

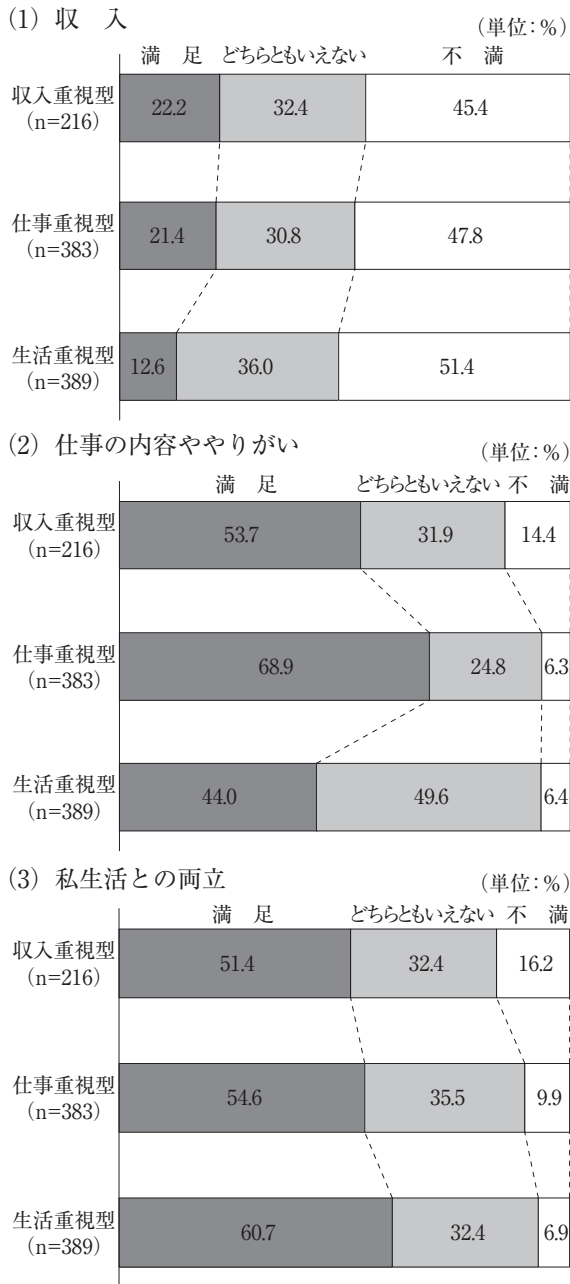
さらに、開業の際に重視したことを切り口としてフリーランスを「収入重視型」「仕事重視型」「生活重視型」の三つに類型化したうえで、事業を始めて良かったことを比較すると、希望と成果がリンクしている様子がみてとれる。例えば、「収入が予想どおり増加」「自由に使える収入を得た」など収入関連の項目のうち一つ以上を挙げた人の割合は、収入重視型では39.4%と、仕事重視型(26.9%)や生活重視型(14.9%)を上回っている

(表－2)。同様に、「経験・知識や資格を生かした」や「思いどおりに仕事できた」など仕事関連の項目を挙げた人の割合は仕事重視型が、「時間に余裕のある生活ができた」や「個人生活を優先できた」など生活関連の項目を挙げた人の割合は生活重視型が、最も高くなっている。

類型別に、収入、仕事の内容ややりがい、私生活との両立の3項目についての満足度をみると、やはりいずれの類型も、それぞれ重視する項目の満足度が他の類型よりも高くなっている。収入については、どの類型でも満足度はさほど高くないものの、満足（「かなり満足」と「やや満足」の合計）と答えた人の割合は、収入重視型が22.2%で仕事重視型(21.4%)や生活重視型(12.6%)を上回っている(図－4(1))。続いて



図-4 満足度 (フリーランスのみ、類型別)



(注) 図-3 (注) に同じ。

仕事の内容ややりがいについてみると、満足と答えた人の割合は、仕事重視型で68.9%と、他の類型よりも高い (図-4 (2))。同様に私生活との両立をみると、満足の割合は生活重視型で60.7%と、他の類型よりも高い (図-4 (3))。

こうした一連の結果を踏まえて、藤井・村上

(2018) は、フリーランスには思いどおりに働くことができる自由度の高さがあり、それが満足度の高さにつながっていると結論づけている。

### 3 先行研究

続いて、問題意識に対応した二つの観点、すなわち開業動機とパフォーマンスに関する先行研究を確認する。

#### (1) 開業動機に関する研究

フリーランスの実態に関する調査は複数あるが、どの調査においても、不本意型フリーランスの割合は高くない。

例えば、独立自営業者に対するアンケートを基にした労働政策研究・研修機構 (2018) によると、「自分のペースで働く時間を決めることができると思ったから」が35.9%と最も高く、次いで「収入を増やしたかったから」(31.8%)、「自分の夢の実現やキャリアアップのため」(21.7%)と続く<sup>4</sup>。これに対し、「その時働いていた会社の倒産・リストラ」(3.8%)や「正社員として働きたいが、仕事が見つからなかったから」(3.4%)といった消極的な理由を選んだ割合は、1割未満と低かった。

周 (2006) も、独自のアンケートに基づき個人請負就業の決定要因について分析を行っている。現在の仕事を選んだ理由をみると、「自分の生活スタイルに合わせて自由に仕事がしたかったから」が53.0%と最も高く、「いままでの経験・知識や資格をいかしたかったから」(52.1%)、「収入を得たかったから」(48.4%)と続く<sup>5</sup>。「他に適当な勤め先がなかったから」は17.6%と少数派だった。中小企業庁編 (2015) やプロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会(2018)

<sup>4</sup> 複数回答。

<sup>5</sup> 複数回答。

においては、消極的な理由に該当する選択肢自体が設定されていない<sup>6</sup>。

ただし、少数派ではあっても、無視できるほど小さいものではないようだ。周（2006）は、個人請負という就業形態を選択する要因について、①リスク選好度仮説（リスク選好度の高い人が個人請負の道を選択する）、②仕事の柔軟性重視仮説（労働時間や場所の柔軟性を重視する人が個人請負の道を選択する）、③自己実現仮説（自己実現を目的として個人請負の道を選択する）、④不本意就業仮説（他の就業形態に就くことができないためにやむをえず個人請負の道を選択する）という四つの仮説を独自に立て、どの仮説が成立するかを多変量解析によって検証しているが、支持されたのは④不本意就業仮説のみであった。つまり、それ以外の動機をもつ人は、必ずしも個人請負の道を選ぶとは限らないということだ。

次に、開業動機と満足度の関係についての先行研究をレビューしよう。玄田・川上（2004）は、国民生活金融公庫総合研究所が2002年に実施したアンケート結果を用いて、自己雇用者における仕事および生活全般の満足確率を推定している。19項目の開業動機を①能動的動機（「事業のアイデアやビジネスチャンスが見つかった」や「必要な免許や資格などを取得した」など）、②受動的動機（「勤務先の倒産や人員整理があった」や「勤務先で仕事の方針や内容に不満があった」など）、③その他の動機（「家業を継げる経験や知識を身につけた」や「家業を継げる年齢になった」など）に分けて説明変数に投入し（参照変数は②受動的動機）、仕事の満足度と生活全般の満足度を被説明変数とした回帰分析を行ったところ、能動的動機は非有意、その他の開業動機は仕事の満足度

のみ有意にプラスだった。部分的ではあるが、参照変数である受動的動機は満足度に対してマイナスに効いていることになる。

このほかに、フリーランスに関するものではないが、不本意型の非正規雇用について分析した研究もある。山本（2011）は、非正規雇用の主観的厚生水準（ストレスの大きさ）について実証分析を行い、不本意型の非正規雇用は、本意型の非正規雇用に比べてストレスが大きいことを明らかにした。そしてその要因として、不況による需要不足やミスマッチなどによって希望する職に就けていないという点で制約を受けており、それが主観的厚生水準を低下させていると指摘している。

## （2）パフォーマンスに関する研究

パフォーマンスの指標として主に使われるのは、収入である。まず、収入の多寡について、先行研究の結果を確認しよう。

先に紹介したとおり、藤井・村上（2018）では、事業から得ている年収について、フリーランスと正社員雇用企業を比較し、前者のほうが少ないことを明らかにしている。玄田・高橋（2003）は、厚生省「所得再分配調査」の結果を用いて自己雇用者と一般常用雇用者の所得格差を分析し、前者のほうが有意に低いとの結果を得ている。周（2006）は個人請負と正社員の時間当たり収入額を比較し、前者のほうが23%程度低く、ばらつきが大きいことを導出した。プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会（2018）はフリーランスと会社員の年収を比較し、前者のほうが低いとの結果を得ている<sup>7</sup>。ここまできると、フリーランスの収入は、正社員雇用企業や雇用者に比べて低い傾向にある。

<sup>6</sup> 消極的な理由に該当する選択肢を設けていない調査においても、「その他」の回答割合は高くないことから、能動的な理由以外で開業した人が少数派であると推測できる。

<sup>7</sup> ただし、フルタイムフリーランス（月の平均勤務時間が140時間以上の人）に限れば、ボリュームゾーン（300万～500万円）の割合に両者の差はあまりないと述べている。

パフォーマンスの高さに影響を与える要素に関する研究についてもみておこう。労働政策研究・研修機構(2018)は、主たる生計の担い手がそれ以外の人に比べて、また専業が兼業に比べて、それぞれ報酬総額が高いことを明らかにした。周(2006)はコンサルタント業やIT関係従事者の収入が高く、補助的業務の収入が低いとの結果を得ている。

フリーランスに限ったものではないが、本庄(2007)は、数々の先行研究を踏まえ、企業の成長の決定要因について、①資源、②戦略、③環境の三つの視点からまとめている。①資源の例として、企業家自身の年齢、教育水準、経験、モチベーション、経営チームなどを、②戦略の例として、市場ポジショニング、技術、外部資源へのアクセス(人的ネットワーク)などを、③環境の例として、市場のライフサイクル、立地、マクロ経済、中小企業政策などを、それぞれ挙げている。

新規開業企業に関する研究も、分析を進めるうえでの参考となる。本人のみで稼働している企業も多く、フリーランスと重なる部分が多いと考えられるからである<sup>8</sup>。鈴木(2012)は、日本政策金融公庫総合研究所「新規開業パネル調査(第2コーホート)」の結果を用いて、開業後5年間の月商増加率の規定要因を分析し、大卒者や斯業経験、低価格戦略、高品質戦略、拡大意欲はプラスに、女性はマイナスに働いていることを明らかにした<sup>9</sup>。本庄(2005)は、中小企業総合研究機構「新規開業にかかる実態調査」のデータを用いて、売上高成長率を被説明変数とした回帰分析を行い、女性や大卒者はプラス、業種経験はマイナスの影

響を与えているとの結果を得た。

ほかにも、新規開業企業のパフォーマンスに関する実証分析は国内外で複数行われてきたが、分析に用いるデータや観測期間が異なることもあり、ある研究では支持された要素が別の研究では反対の結果となるなど、必ずしも統一的な結果が得られているわけではない<sup>10</sup>。こうした現状を踏まえれば、あらためてフリーランスに関する分析を行うことにも、支援のあり方を考えるうえで一定の意義があるものと考えられる。

## 4 分析のねらいと仮説

ここで、分析のねらいと仮説について説明する。分析に用いるのは、第2節で紹介した、日本政策金融公庫総合研究所「フリーランスの実態に関する調査」(2017年)である。

### (1) 開業動機に関する分析のねらい

開業動機は多岐にわたっており、すべての回答をくまなく検証するのは紙幅の制約もあり困難であるため、本稿では、冒頭の問題意識に沿って不本意型フリーランスを中心にみていくことにする。「フリーランスの実態に関する調査」では複数回答で開業動機を尋ねており、そのなかに「適当な勤め先がなかったから」という選択肢がある。これを選んだ人を不本意型フリーランスと定義する<sup>11</sup>。先行研究をみる限り、割合は高くはないものの、一部には不本意型が存在すると予想される。

開業動機に関する分析のねらいは、大きく三つ

<sup>8</sup> 日本政策金融公庫総合研究所「2017年版 起業と起業意識に関する調査」によると、本人のみで稼働している新規開業企業は、66.1%を占める。

<sup>9</sup> 本稿で分析対象とするパフォーマンス指標が収入金額であるのに対して、新規開業企業に関する多くの先行研究で分析対象としているのは売上高の増加率であるため、解釈には留意が必要である。

<sup>10</sup> 本庄(2005)は、国内の研究成果を整理したうえで、共通する見解として、①開業後の成長は、企業規模や業歴と負の相関があること、②50歳代後半以上の人の開業は、相対的にパフォーマンスが悪いこと、の2点を挙げている。

<sup>11</sup> 「適当な勤め先がなかったから」という選択肢を選んだからといって、ほかにまったく働き口がなかったのかまではわからない。それでも、「適当な勤め先があったらその道を選んでいたら」とのニュアンスが含まれていることから、少なくとも本意でフリーランスを選んだわけではないと考えられる。



ある。一つ目は、年齢や性別などの属性による開業動機の違いを検証することである。仮に不本意型が特定の層に偏っているようであれば、そこに労働需給のミスマッチがあるのかもしれない。この観点での先行研究は多くないため、特定の属性に絞らず、複数の切り口から探索的に調べることにする。

二つ目のねらいは、開業動機によって働き方や収入、満足度が異なるのかを検証することである。私生活との両立を重視する人は労働時間を短く抑えるだろうし、仕事が好きで仕方がない人は長時間働くかもしれない。結果として得られる収入や満足度が異なっても不思議ではないだろう。不本意型に関していえば、労働時間や収入に違いがあるかまでは調べてみないとわからないが、少なくとも満足度は低くなっている可能性が高い。職業を選ぶ段階で自律的な選択をしていないためである。その仮説をクロス集計と回帰分析により検証する。

回帰分析における被説明変数としては、「収入」「仕事の内容ややりがい」「私生活との両立」「総合」の4種類の満足度を用いた。いずれも、「かなり満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「かなり不満」の5段階の回答である。ここでは順に「かなり満足」に5、「かなり不満」に1を付与して被説明変数に用い、順序プロビットモデルによる推計を行った。説明変数の係数がプラスとなれば満足度を高めることを、マイナスとなれば満足度を下げることを意味する。

説明変数には、労働条件として、事業から得られる年間の収入（「20万円未満」から「1,000万円以上」まで九つのカテゴリー変数）と1週間当たりの労働時間（「5時間未満」から「60時間以上」まで九つのカテゴリー変数）を用いた。ここに、16の開業動機をダミー変数として加えた。個人や事業の属性については、女性の場合を1とする「女性」ダミーや主たる家計維持者である場合を1とする「主たる家計維持者」ダミー、仕事を行う場

所が自宅の居室または自宅に併設した事務所・作業所である場合を1とする「職住近接」ダミー、年齢（対数）、業歴（対数）、「業種」ダミーや「直前の職業」ダミーなどによりコントロールしている。変数の定義および基本統計量は、文末の参考表-1に示したとおりである。

三つ目のねらいは、開業動機によって抱える問題点や望む支援策が異なるのかを確認することである。回答に何らかの特徴があれば、政策的に支援をするうえでの手がかりとなる。

## (2) パフォーマンスに関する分析のねらい

後半は、パフォーマンスに関する分析を行う。本稿ではパフォーマンスに関する指標として、事業から得ている年収を用いる。複数の先行研究において、フリーランスの収入が相対的に少ないことが確認されている（藤井・村上、2018；周、2006など）。本稿での分析は、その事実を出発点として、さらに二つの観点から検証を加える。

一つ目は、働き方や属性をコントロールしてもなお、フリーランスの収入が相対的に少ないといえるのか、という点である。フリーランスのなかには、ちょっとした空き時間を活用したいとか、時間的に余裕のある生活をしたいといったように、最初から短時間労働を念頭に置いて開業する人もいる。労働時間が短ければ、その分収入が少なくて当然ともいえる。あるいは、年齢や性別、業種といった属性に偏りがあれば、それが収入水準の違いにつながっている可能性もある。そこで、諸条件をコントロールしたうえで、フリーランスと正社員雇用企業の収入水準を比較する。

「フリーランスの実態に関する調査」では、インターネット調査の制約上、連続変数ではなく、九つのカテゴリー変数として尋ねている。そこで、最も大きいカテゴリーである「1,000万円以上」に9、最も小さいカテゴリーである「25万円未満」に1を付与して被説明変数に用い、順序プロビット

トモデルによる推計を行った。説明変数の係数がプラスとなれば収入を高めることを、マイナスとなれば収入を下げることを意味する。

説明変数には、参考表-1でも言及した属性に関する変数のほか、斯業経験を有する場合を1とする「斯業経験」ダミーを加えた。鈴木(2012)において、新規開業企業の業績にプラスの影響を与えると確認されているためである。このほか、1週間当たりの労働時間(「5時間未満」から「60時間以上」まで九つのカテゴリー変数)でコントロールする。

フリーランスと正社員雇用企業の収入に差があるかを確認するため、両者をまとめたデータセットを用いる。注目すべきは、企業規模のダミー変数につく符号である。「正社員1~4人」を参照変数としており、「フリーランス」にマイナスの符号がつけば相対的に収入が少ないことを意味する。変数の定義および基本統計量は、文末の参考表-2に示したとおりである。

業況や生産性において企業規模間格差は存在し、規模が大きいほど高くなる傾向にある(武士俣、2007; 後藤、2014など)。それを踏まえれば、企業規模間で経営者の収入にも何らかの差が生じている可能性が高い。フリーランスは、正社員1~4人や正社員5~19人の企業の経営者よりも収入が少ないと予想される。

二つ目は、フリーランスにおいて、どのような要素が収入の多寡に影響を与えるのか、という観点である。フリーランスの収入水準が低いとはいえ、なかには多くの収入を得ている人もいる。その違いはどこからくるのか。収入(九つのカテゴリー変数)を被説明変数とした回帰分析を試みる。

説明変数は、参考表-2と同じものに、16の「開業動機」ダミーと、三つの「競争力に関する指標」ダミーを加えた。競争力に関する指標とは、企業のパフォーマンスに影響を与えられると考えられる要素である。具体的には、「同業者と比べて価格

が安い」「同業者と比べて品質や納期などに特徴がある」「人脈は豊富である」という3項目だ。いずれも該当する場合に1を取るダミー変数である。データセットは、フリーランス、正社員1~4人、正社員5~19人の三つに分けた。企業規模によって、影響を与える要素が異なる可能性があると考えたためだ。変数の定義および基本統計量は、文末の参考表-3に示したとおりである。

仮説は以下のとおりである。複数の変数が収入に影響を与えている可能性が高い。属性でいえば、斯業経験はプラスに、前職が無職であることはマイナスに効いていると考えられる。開業動機でいえば、収入や仕事に関する項目はプラスに、生活との両立に関する項目はマイナスに影響していると予想される。競争力に関する要素でいえば、品質に特徴があるとか人脈が豊富であるといった項目はプラスに影響しているだろう。販売価格の低さは、新規開業企業を分析した鈴木(2012)においてはプラスに働いているが、フリーランスに関する限りは逆の効果が生じている可能性がある。厚生労働省(2018)や公正取引委員会(2018)などが指摘するように、不利な取引条件を発注者から強いられるケースが想定されるためだ。

## 5 分析結果

### (1) 開業動機に関する分析結果

#### ① 属性によって開業動機は異なるのか

それでは、順に分析結果をみていこう。まずは、フリーランス全体について開業動機を確認すると、「自分の思いどおりに仕事をしたかったから」が45.9%と最も多く、次いで「自分の経験・知識や資格を生かしたかったから」(32.5%)、「収入を増やしたかったから」(21.3%)などと続く(表-3)。収入や仕事が主な動機となっているようである。ただし、「時間に余裕のある生活をしたかったか

表-3 開業動機（フリーランスのみ、属性別、複数回答）

(単位：%)

	n値	収入関連		仕事関連					生活関連					その他				
		収入を増やしたかったから	自分が自由に使える収入が欲しかったから	自分の思いどおりに仕事をしたかったから	自分の経験・知識や資格を生かしたかったから	自分の技術やアイデアを事業化したかったから	事業経営という仕事に興味があったから	事業を承継することになったから	時間的に余裕のある生活がしたかったから	個人の生活を優先したかったから	自分の趣味や特技を生かしたかったから	自分や家族の健康上の問題から	空いている時間を活用できるから	転勤がないから	育児や介護をするために必要だったから	適当な勤め先がなかったから	その他	
フリーランス全体	988	21.3	10.0	45.9	32.5	16.0	10.1	2.9	19.1	18.3	13.6	7.5	7.5	6.1	3.9	16.8	2.3	
性別	男性	864	21.9	10.3	46.2	32.2	16.3	11.1	3.2	18.4	17.5	12.3	7.4	6.9	6.6	2.9	16.8	2.1
	女性	124	16.9	8.1	43.5	34.7	13.7	3.2	0.8	24.2	24.2	22.6	8.1	11.3	2.4	11.3	16.9	4.0
年齢	39歳以下	73	32.9	16.4	42.5	26.0	17.8	9.6	2.7	21.9	12.3	20.5	12.3	15.1	4.1	5.5	21.9	1.4
	40歳代	285	24.2	11.2	49.8	27.4	12.3	13.7	3.2	23.2	22.5	15.1	8.4	8.1	7.0	4.2	15.8	2.8
	50歳代	382	19.1	8.1	44.0	32.2	16.8	8.1	3.1	17.5	18.8	13.4	7.3	6.0	5.2	4.5	16.8	1.6
	60歳代	213	18.3	10.3	46.0	38.5	16.9	8.9	2.8	17.4	16.0	10.3	6.1	6.6	8.0	2.8	16.9	2.8
	70歳以上	35	14.3	5.7	40.0	54.3	28.6	11.4	0.0	8.6	5.7	8.6	0.0	8.6	0.0	0.0	14.3	5.7
主たる家計維持者か	該当する	799	22.4	10.5	46.1	32.9	16.1	10.5	2.9	18.8	17.1	12.3	6.3	6.5	6.8	3.4	17.0	2.4
	該当しない	189	16.4	7.9	45.0	30.7	15.3	8.5	3.2	20.6	23.3	19.0	12.7	11.6	3.2	6.3	15.9	2.1
直前の職業	常勤役員	92	15.2	7.6	42.4	34.8	15.2	12.0	3.3	16.3	16.3	6.5	8.7	5.4	5.4	3.3	20.7	2.2
	正社員	487	21.8	9.2	50.7	33.5	15.0	12.1	1.6	22.0	19.5	12.5	8.0	4.9	5.7	3.7	16.8	3.1
	パート・アルバイト	77	18.2	9.1	45.5	29.9	16.9	9.1	3.9	19.5	19.5	22.1	11.7	9.1	5.2	7.8	19.5	2.6
	派遣社員	30	23.3	20.0	53.3	26.7	23.3	23.3	0.0	36.7	23.3	36.7	10.0	13.3	16.7	6.7	30.0	3.3
	契約社員	56	25.0	5.4	46.4	37.5	28.6	3.6	1.8	23.2	25.0	8.9	1.8	7.1	0.0	8.9	17.9	1.8
	家族従業員	34	11.8	11.8	35.3	26.5	11.8	0.0	5.9	11.8	5.9	2.9	11.8	8.8	5.9	5.9	11.8	0.0
	自営業主・企業経営者	123	28.5	17.1	39.8	32.5	17.9	6.5	0.0	13.0	19.5	15.4	2.4	14.6	5.7	2.4	8.1	1.6
	学生	41	14.6	0.0	24.4	29.3	7.3	2.4	22.0	4.9	4.9	14.6	9.8	4.9	12.2	0.0	14.6	0.0
	専業主婦・主夫	9	11.1	11.1	33.3	44.4	22.2	11.1	0.0	11.1	22.2	55.6	0.0	33.3	0.0	0.0	11.1	0.0
	無職	25	24.0	12.0	32.0	16.0	8.0	8.0	8.0	0.0	4.0	4.0	4.0	12.0	4.0	0.0	28.0	0.0

(注) 直前の職業について、該当者が1件のみであった「年金生活者」と「その他」は記載を省略した。

ら」(19.1%)や「個人の生活を優先したかったから」(18.3%)など生活関連の動機を挙げる人も、少なからずいる。不本意型に該当する「適当な勤め先がなかったから」は、16.8%となった。この不本意型の割合は、周(2006)における結果(17.6%)に近い水準である。他の選択肢に比べれば少ないものの、絶対的な値として考えれば、決して低い割合とはいえない。

同じ表-3で、属性別の結果も確認しておこう。性別でみると、「収入を増やしたかったから」「自

分の技術やアイデアを事業化したかったから」「事業経営という仕事に興味があったから」など、収入関連や仕事関連の項目は男性に多い。一方、「時間的に余裕のある生活がしたかったから」「個人の生活を優先したかったから」「自分の趣味や特技を生かしたかったから」「空いている時間を活用できるから」「育児や介護をするために必要だったから」といった生活関連の項目は女性に多い。「適当な勤め先がなかったから」は男女で差がなかった。年齢別でみると、「収入を増やしたかったから」

「適当な勤め先がなかったから」は若年層で多く、「自分の経験・知識や資格を生かしたかったから」は高齢層が多い。食べていくため、生活するための働き口としてフリーランスを選ぶのは若者、生きがいや働きがいを求めてフリーランスを選ぶのはシニア、という構図だ。興味深いのは、若い世代には「時間的に余裕のある生活がしたかったから」「自分の趣味や特技を生かしたかったから」「空いている時間を活用できるから」を挙げる人も多いことである。収入は欲しいが、かといって私生活を犠牲にしてまで稼ごうとは思わない。あるいは空いた時間をうまく活用して、趣味の延長線上でプラスアルファの収入を手に入れる。働くことに対するスタンスのそうした違いも浮かんてくる<sup>12</sup>。

主たる家計維持者かどうかは、性別の傾向に近い結果となった。コメントとして付け加えるとすれば、「自分や家族の健康上の問題から」を挙げる割合が、主たる家計維持者に該当しない人で目立った。こうした制約のある人が、家計の足しにするためにフリーランスとして働いているのかもしれない。

直前の職業別で見ると、正社員や派遣社員など、従来から仕事をもっていた人は、「自分の思いどおりに仕事をしたかったから」を挙げる割合が高い。専業主婦・主夫は、「自分の趣味や特技を生かしたかったから」や「空いている時間を活用できるから」を挙げる割合が高い。そして無職だった人は、「自分の思いどおりに仕事をしたかったから」のほか、「収入を増やしたかったから」や「適当な勤め先がなかったから」を挙げる割合が高い。

このように、属性別にみていくと開業動機はまちまちであるが、総じて違和感のない結果となった。

## ② 開業動機で働き方や満足度は異なるのか

今度は、開業動機によって働き方が異なるのかを確認しよう。事業に従事する時間（1週間当たり）をみると、フリーランス全体では「10時間未満」が22.9%、「10時間以上20時間未満」が10.1%など、比較的短い時間を挙げる人がいる一方で、「40時間以上50時間未満」(18.4%)や「50時間以上」(22.1%)というフルタイムのような働き方をする人も同程度は存在する（表-4）。つまり、働き方は一様ではない。開業動機別にみると、収入関連や仕事関連の動機を挙げた人は長時間働く割合が高めで、生活関連の動機を挙げた人は短時間働く割合が高めという傾向がある。先行研究で指摘する、フリーランスの自律性の高さを裏付けるデータといえる。

開業動機によって、収入に違いはあるのか。事業から得ている年収を開業動機別にみると、収入関連や仕事関連の動機を挙げた人は比較的多くの収入を得ている割合が高く、生活関連の動機を挙げた人の収入は少ない傾向にある（表-5）。この差は、労働時間の違いによるところもあると考えられる<sup>13</sup>。なお、不本意型の人々の収入は、相対的にみて低めであった。

満足度にも違いはある。総合的な満足度（以下、総合満足度という）についてみてみよう。フリーランス全体では、「満足」（「かなり満足」と「やや満足」の合計）が46.5%、「どちらともいえない」が36.2%、「不満」（「かなり不満」と「やや不満」の合計）が17.3%となった（表-6）。「満足」が「不満」を大きく上回っており、前者の割合から後者の割合を差し引いたDIは29.1であった。これを開業動機別にみると、いずれの項目においても、DIはプラスとなっている。つまり、どんな動機

<sup>12</sup> 図では示していないが、性別と年齢別を合わせてクロス集計をすると、男女で若干の違いもみられる。例えば、「時間的に余裕のある生活がしたかったから」や「個人の生活を優先したかったから」といった生活関連の項目を選ぶ人は、若い世代のなかでも女性に多くみられる。一方で、「収入を増やしたかったから」や「空いている時間を活用できるから」を選ぶ割合は、若い世代の男女ともに高い傾向にあった。つまり、収入を求める若い男性、時間のゆとりを求める若い女性、といった単純な構図ではない。

<sup>13</sup> 労働時間や属性などをコントロールしたうえでなお開業動機による収入の違いがあるかどうかは、表-11で分析している。



表－４ 事業に従事する時間（１週間当たり、フリーランスのみ、開業動機別）

(単位：%)

		n値	10時間未満	10時間以上 20時間未満	20時間以上 30時間未満	30時間以上 40時間未満	40時間以上 50時間未満	50時間以上
フリーランス全体		988	22.9	10.1	9.9	16.6	18.4	22.1
収入 関連	収入を増やしたかったから	210	21.0	10.5	7.6	14.3	18.6	28.1
	自分が自由に使える収入が 欲しかったから	99	20.2	12.1	15.2	12.1	15.2	25.3
仕事 関連	自分の思いどおりに仕事を したかったから	453	19.6	10.2	9.5	19.4	16.8	24.5
	自分の経験・知識や資格を 生かしたかったから	321	21.5	9.7	9.3	17.4	20.9	21.2
	自分の技術やアイデアを 事業化したかったから	158	22.8	9.5	8.2	13.9	19.0	26.6
	事業経営という仕事に 興味があったから	100	19.0	11.0	5.0	17.0	14.0	34.0
	事業を承継することにな ったから	29	10.3	6.9	3.4	17.2	27.6	34.5
生活 関連	時間的に余裕のある生活が したかったから	189	25.9	12.7	12.2	18.5	16.9	13.8
	個人の生活を優先 したかったから	181	25.4	11.6	12.2	12.7	17.7	20.4
	自分の趣味や特技を 生かしたかったから	134	21.6	11.2	14.9	15.7	11.2	25.4
	自分や家族の健康上の 問題から	74	23.0	9.5	9.5	20.3	18.9	18.9
	空いている時間を 活用できるから	74	24.3	8.1	16.2	12.2	16.2	23.0
	転勤がないから	60	20.0	3.3	5.0	18.3	25.0	28.3
	育児や介護をするために 必要だったから	39	25.6	12.8	17.9	10.3	12.8	20.5
そ の 他	適当な勤め先が なかったから	166	27.7	9.0	10.2	19.3	16.9	16.9
	その他	23	21.7	8.7	0.0	26.1	30.4	13.0

(注) 開業動機は複数回答で尋ねたもの（以下、表－５、表－６、表－８、表－９も同じ）。

で開業しても、最終的にある程度は満足していることになる。程度に差はみられるが、完全にばらばらというよりは、一部の項目において目立って満足度が低いといったほうが実態に近い。

DIでみると、「自分や家族の健康上の問題から」(5.4)、「適当な勤め先がなかったから」(6.0)の水準が目立って低い。健康上の問題を抱えていたら満足感に乏しいというのは十分理解できるし、適当な勤め先がなく不本意ながらの開業は満足できないであろうことも、仮説の段階で想定したと

おりの結果である。

「事業を承継することになったから」(17.2)と「事業経営という仕事に興味があったから」(19.0)のDIが低いのは、やはり経営とは思ったほど甘くないと感じている結果だろう。「転勤がないから」(18.3)が低いのは、これが満たされても総合的な満足度を大きく引き上げるほどの強いインパクトのある動機ではなかったものと解釈できる。

もっとも、こうした開業動機による差は、労働

表-5 事業から得ている年収 (フリーランスのみ、開業動機別)

(単位: %)

		n値	100万円未満	100万円以上 300万円未満	300万円以上 500万円未満	500万円以上 800万円未満	800万円以上
フリーランス全体		690	30.4	22.5	23.3	17.2	6.5
収入 関連	収入を増やしたかったから	160	26.9	18.8	23.1	20.6	10.6
	自分が自由に使える収入が 欲しかったから	82	31.7	20.7	20.7	15.9	11.0
仕事 関連	自分の思いどおりに仕事を したかったから	326	28.2	21.5	25.8	16.9	7.7
	自分の経験・知識や資格を 生かしたかったから	234	30.3	20.5	20.5	20.9	7.7
	自分の技術やアイデアを 事業化したかったから	117	33.3	19.7	17.9	20.5	8.5
	事業経営という仕事に 興味があったから	73	31.5	16.4	20.5	15.1	16.4
	事業を承継すること になったから	16	18.8	25.0	18.8	31.3	6.3
生活 関連	時間的に余裕のある生活が したかったから	136	32.4	26.5	23.5	12.5	5.1
	個人の生活を優先 したかったから	135	34.8	23.7	25.9	11.1	4.4
	自分の趣味や特技を 生かしたかったから	96	30.2	29.2	21.9	10.4	8.3
	自分や家族の健康上の 問題から	59	45.8	16.9	18.6	11.9	6.8
	空いている時間を 活用できるから	44	20.5	38.6	20.5	15.9	4.5
	転勤がないから	43	30.2	18.6	18.6	16.3	16.3
	育児や介護をするために 必要だったから	30	63.3	16.7	10.0	6.7	3.3
その 他	適当な勤め先が なかったから	116	36.2	30.2	17.2	12.1	4.3
	その他	17	23.5	17.6	23.5	29.4	5.9

時間や収入の水準などの諸条件をそろえたうえで比較したものではない。そこで回帰分析により、各要素をコントロールしたうえで、満足度に差があるのかを検証する。

分析結果は、表-7のようになった。属性に関する変数から確認すると、「女性」は、4種類すべての満足度で有意にプラスとなった。女性のほうが男性に比べて、組織に属する働き方で受ける制約がいまだに大きく、反対にフリーランスとして働くことに満足を感じやすいのだろう。一方、業歴は有意にマイナスとなった。業歴を重ねてい

くうちに、その環境に慣れてきてしまうことから、満足度は逡減していくのかもしれない。「配偶者」も、4種類すべての満足度で有意にプラスとなった。配偶者のサポートが、仕事や生活の支えになっていると推測される。「直前の職業」では、「学生」や「無職」の一部の満足度で有意にプラスとなった。自らの力で稼いだという意識が、収入などの満足度を高めるものと思われる。

労働条件に関する変数を見ると、他の要素をコントロールした場合、収入は高くなるほどすべての満足度を高め、労働時間は短くなるほど生活

表－6 総合的な満足度（フリーランスのみ、開業動機別）

(単位：％、DI)

		n値	満 足	どちらとも いえない	不 満	D I
フリーランス全体		988	46.5	36.2	17.3	29.1
収入 関連	収入を増やしたかったから	210	44.8	37.6	17.6	27.1
	自分が自由に使える収入が 欲しかったから	99	52.5	30.3	17.2	35.4
仕事 関連	自分の思いどおりに仕事を したかったから	453	53.9	33.1	13.0	40.8
	自分の経験・知識や資格を 生かしたかったから	321	56.1	29.3	14.6	41.4
	自分の技術やアイデアを 事業化したかったから	158	53.2	30.4	16.5	36.7
	事業経営という仕事に 興味があったから	100	41.0	37.0	22.0	19.0
	事業を承継することになっ たから	29	41.4	34.5	24.1	17.2
生活 関連	時間的に余裕のある生活が したかったから	189	54.5	33.9	11.6	42.9
	個人の生活を優先 したかったから	181	54.1	32.0	13.8	40.3
	自分の趣味や特技を 生かしたかったから	134	56.0	30.6	13.4	42.5
	自分や家族の健康上の 問題から	74	32.4	40.5	27.0	5.4
	空いている時間を 活用できるから	74	51.4	41.9	6.8	44.6
	転勤がないから	60	45.0	28.3	26.7	18.3
	育児や介護をするために 必要だったから	39	51.3	28.2	20.5	30.8
そ の 他	適当な勤め先が なかったから	166	32.5	41.0	26.5	6.0
	その他	23	60.9	34.8	4.3	56.5

(注) DIは、「満足」と回答した企業割合から「不満」と回答した企業割合を差し引いた値。

満足度を高める結果となった。これらは、直感的に理解できるところであろう。

「開業動機」は、満足度の種類によって、影響の度合いや出方が異なる。「収入を増やしたかったから」は、生活満足度で有意にマイナスとなった。多くの収入を得るために、生活の何らかの部分にしわ寄せが出ている可能性がある。逆に、「時間的に余裕のある生活がしたかったから」は、収入満足度でマイナスとなっている。ここから、収入と余暇はトレードオフの関係にあることがわか

る。また、「自分の思いどおりに仕事をしたかったから」は、仕事満足度でプラスとなった。収入の多寡にかかわらず、自ら望んで取り組む仕事であれば、確かに満足度は高いだろう。

そして注目したいのは、「適当な勤め先がなかったから」、すなわち不本意型フリーランスの満足度である。結果、生活以外の三つの満足度で有意にマイナスとなった。収入や仕事のやりがいでは不満はあるが、生活との両立はできている、といったところであろうか。自律性なき職業選択の結果

表-7 フリーランスの満足度に関する推計

推計モデル：順序プロビットモデル		フリーランス全体				
		収入満足度	仕事満足度	生活満足度	総合満足度	
被説明変数		満足度（「かなり満足」= 5、「やや満足」= 4、「どちらともいえない」= 3、「やや不満」= 2、「かなり不満」= 1）				
属 性	女性（該当 = 1、非該当 = 0）	0.340 **	0.550 ***	0.525 ***	0.406 **	
	年齢（対数）	-0.035	0.161	0.351	0.295	
	主たる家計維持者（該当 = 1、非該当 = 0）	-0.042	0.026	-0.028	-0.051	
	家族構成	配偶者（有 = 1、無 = 0）	0.243 **	0.271 ***	0.280 ***	0.280 ***
		未就学児（同上）	0.144	-0.121	-0.138	0.238
		小学生（同上）	0.016	0.295	0.068	-0.022
		要介護家族（同上）	0.025	0.110	-0.039	-0.048
	職住近接（該当 = 1、非該当 = 0）	0.045	0.236 **	0.139	0.041	
	業歴（対数）	-0.162 ***	-0.227 ***	-0.134 **	-0.190 ***	
	直前の職業	会社や団体の常勤役員（該当 = 1、非該当 = 0）	0.192	0.033	0.080	0.070
		会社や官公庁・団体の正社員・正職員（同上）	(参照変数)	(参照変数)	(参照変数)	(参照変数)
		パート・アルバイト（同上）	0.199	0.247	0.317 *	0.296 *
		派遣社員（同上）	-0.092	-0.036	0.129	-0.178
		契約社員（同上）	-0.112	0.050	-0.051	-0.131
		家族従業員（同上）	-0.123	-0.256	-0.252	-0.187
		自営業主・企業経営者（同上）	0.098	-0.199	0.011	-0.120
		学生（同上）	0.506 **	0.111	1.042 ***	0.226
		専業主婦・主夫（同上）	0.262	-0.123	-1.045 **	0.019
		無職（同上）	0.494 *	0.453	0.543 *	0.556 *
		その他（同上）	-0.197	1.186	0.652	1.130
労働条件	25万円未満（該当 = 1、非該当 = 0）	(参照変数)	(参照変数)	(参照変数)	(参照変数)	
	25万円以上50万円未満（同上）	0.610 ***	0.293	0.426 **	0.433 **	
	50万円以上100万円未満（同上）	0.511 **	0.648 ***	0.342 *	0.616 ***	
	100万円以上200万円未満（同上）	0.777 ***	0.572 ***	0.906 ***	0.705 ***	
	200万円以上300万円未満（同上）	0.707 ***	0.392 **	0.254	0.605 ***	
	300万円以上500万円未満（同上）	1.041 ***	0.603 ***	0.487 ***	0.806 ***	
	500万円以上800万円未満（同上）	1.477 ***	0.470 ***	0.406 **	1.153 ***	
	800万円以上1,000万円未満（同上）	2.482 ***	1.330 ***	1.226 ***	2.011 ***	
	1,000万円以上（同上）	2.459 ***	1.448 ***	1.268 ***	1.825 ***	
	労働時間	5時間未満（該当 = 1、非該当 = 0）	0.072	-0.161	0.963 ***	0.290
		5時間以上10時間未満（同上）	0.530 ***	0.024	0.856 ***	0.404 **
		10時間以上15時間未満（同上）	0.185	-0.018	0.405 *	0.224
		15時間以上20時間未満（同上）	0.404	-0.279	0.741 ***	0.192
		20時間以上30時間未満（同上）	0.316	-0.026	0.988 ***	0.448 **
		30時間以上40時間未満（同上）	0.305 *	-0.043	0.890 ***	0.336 *
		40時間以上50時間未満（同上）	0.092	0.006	0.754 ***	0.169
		50時間以上60時間未満（同上）	0.250	0.161	0.689 ***	0.430 **
60時間以上（同上）	(参照変数)	(参照変数)	(参照変数)	(参照変数)		
開業動機	収入を増やしたかったから（該当 = 1、非該当 = 0）	-0.087	-0.215 *	-0.380 ***	-0.133	
	自分が自由に使える収入が欲しかったから（同上）	0.374 **	0.217	0.255 *	0.129	
	仕事の経験・知識や資格を生かしたかったから（同上）	0.182 *	0.228 **	0.318 ***	0.244 **	
	自分の技術やアイデアを事業化したかったから（同上）	-0.007	0.295 **	-0.098	0.038	
	事業経営という仕事に興味があったから（同上）	-0.249 *	-0.159	-0.202	-0.319 **	
	自分の思いどおりに仕事をしたかったから（同上）	-0.016	0.223 **	-0.002	0.267 ***	
	事業を承継することになったから（同上）	-0.612 **	-0.227	-0.274	-0.265	
	転勤がないから（同上）	-0.213	0.082	-0.031	-0.381 **	
	時間的に余裕のある生活がしたかったから（同上）	-0.300 **	-0.223 *	0.251 *	-0.018	
	個人の生活を優先したかったから（同上）	0.052	0.033	0.284 **	0.144	
	自分の趣味や特技を生かしたかったから（同上）	-0.052	0.297 **	0.148	0.172	
	育児や介護をするために必要だったから（同上）	-0.218	0.039	-0.392 *	-0.266	
	自分や家族の健康上の問題から（同上）	-0.187	-0.080	-0.283 *	-0.201	
	適当な勤め先がなかったから（同上）	-0.410 ***	-0.272 **	-0.184	-0.254 **	
	空いている時間を活用できるから（同上）	0.438 **	-0.137	-0.023	0.000	
その他（同上）	0.248	0.421	0.251	0.606 **		
閾値 1	-0.137	-1.408	0.169	-0.111		
閾値 2	0.814	-0.828	0.925	0.731		
閾値 3	1.854	0.522	2.103	1.834		
閾値 4	3.119	2.205	3.781	3.609		
疑似決定係数	0.126	0.107	0.123	0.116		
観測数	661	661	661	661		

(注) 1 \*\*\*、\*\*、\*はそれぞれ1%、5%、10%水準で有意であることを示す。係数を掲載。

2 業種ダミーは掲載を省略した。



表-8 事業を行ううえでの問題点（フリーランスのみ、開業動機別）

(単位：%)

		n値	対価を受け取るまでに長時間かかる	対価が低い	納期が短い	売り上げを安定的に確保しづらい	仕事の打ち切りや一方的縮小	顧客との人間関係構築	仕事の質・成果に対する評価が低い	仕事の質・成果に対し過大な要求を受ける	就業時間が長い	資金調達が難しい	税金や保険等の手続きが難しい	社会保障制度が手薄	相談相手がない	けがや病気の際の対応	仕事に関する知識・スキルを高めにくい	その他	とくにない
フリーランス全体		988	3.7	12.6	1.1	26.3	2.3	0.4	1.4	0.4	2.5	5.7	2.5	5.1	1.3	13.7	1.4	0.4	19.1
収入連	収入を増やしたかったから	210	4.8	13.8	0.5	23.3	1.4	0.5	1.0	0.5	3.8	5.2	3.3	7.1	1.0	13.8	1.9	0.5	17.6
	自分が自由に使える収入が欲しかったから	99	6.1	10.1	1.0	24.2	2.0	0.0	0.0	0.0	5.1	7.1	4.0	7.1	0.0	16.2	0.0	1.0	16.2
仕事関連	自分の思いどおりに仕事をしたかったから	453	4.4	12.1	0.2	30.0	1.8	0.9	1.3	0.7	2.4	5.7	2.6	5.5	1.3	15.5	1.3	0.4	13.7
	自分の経験・知識や資格を生かしたかったから	321	5.9	12.8	1.2	25.9	1.9	0.0	1.9	0.3	2.5	6.2	2.5	5.3	0.6	16.5	1.2	0.6	14.6
	自分の技術やアイデアを事業化したかったから	158	3.8	14.6	0.6	31.0	3.2	0.6	1.9	0.0	2.5	5.7	1.9	5.1	1.9	15.8	0.6	0.6	10.1
	事業経営という仕事に興味があったから	100	3.0	11.0	1.0	27.0	2.0	0.0	1.0	2.0	6.0	9.0	4.0	5.0	0.0	16.0	3.0	1.0	9.0
	事業を承継することになったから	29	0.0	20.7	6.9	20.7	3.4	0.0	0.0	0.0	13.8	3.4	3.4	0.0	0.0	17.2	0.0	0.0	10.3
生活関連	時間的に余裕のある生活をしたかったから	189	1.6	13.8	0.5	32.3	2.1	1.1	0.5	0.0	0.5	6.9	2.6	7.4	1.1	14.3	1.1	0.5	13.8
	個人の生活を優先したかったから	181	2.8	14.9	0.6	29.8	2.2	1.1	1.7	0.6	2.8	7.7	2.2	2.2	1.7	13.8	1.1	0.6	14.4
	自分の趣味や特技を生かしたかったから	134	3.7	14.9	1.5	32.8	1.5	0.0	1.5	0.0	2.2	9.0	1.5	5.2	0.7	14.2	1.5	0.0	9.7
	自分や家族の健康上の問題から	74	1.4	14.9	1.4	33.8	1.4	0.0	1.4	1.4	5.4	6.8	0.0	4.1	1.4	12.2	5.4	0.0	9.5
	空いている時間を活用できるから	74	4.1	10.8	0.0	28.4	0.0	0.0	1.4	1.4	1.4	6.8	0.0	5.4	0.0	9.5	0.0	1.4	29.7
	転職がないから	60	6.7	15.0	3.3	18.3	1.7	0.0	0.0	0.0	8.3	6.7	6.7	5.0	0.0	11.7	1.7	0.0	15.0
	育児や介護をするために必要だったから	39	2.6	2.6	0.0	38.5	2.6	0.0	0.0	0.0	10.3	5.1	0.0	2.6	2.6	23.1	2.6	0.0	7.7
その他	適当な勤め先がなかったから	166	6.6	14.5	1.2	29.5	1.8	0.0	0.6	0.6	1.8	8.4	3.0	3.6	1.8	9.6	0.6	0.0	16.3
	その他	23	8.7	4.3	0.0	13.0	8.7	0.0	4.3	0.0	4.3	8.7	4.3	17.4	0.0	4.3	0.0	0.0	21.7

(注) 開業動機は複数回答で尋ねたもの。事業を行ううえでの問題点は最も大きなものを選んでもらったもの。

として、不本意型の満足度は低くなる、との仮説は支持されたことになる。

③ 開業動機によって抱える問題点や

望む支援策が異なるのか

働き方や満足度に差がみられるとなれば、抱え

る問題点や望む支援策についても異なる可能性が高い。順にみていこう。

表-8では、事業を行ううえでの問題点を示した。フリーランス全体でみると、「売り上げを安定的に確保しづらい」が26.3%と最も多かった。意外だったのは、2番目が「とくにない」(19.1%)

だったことだ。5人に1人は悩みがないというのは特筆に値する。日本政策金融公庫総合研究所が四半期ごとに実施している「全国中小企業動向調査」(小企業編)でも経営上の問題点を尋ねている<sup>14</sup>。選択肢は完全に同じではないものの、「とくにない」と回答する割合は、1割程度にすぎない。フリーランスでは「満足」の割合が「不満」の割合を上回っているとのデータを先に示したが、こうしたところからも、満足度の高さがうかがえる。3番目以降は、「けがや病気の際の対応」(13.7%)、「対価が低い」(12.6%)などとなっている。

開業動機別でみても、大まかな傾向はフリーランス全体とさほど変わっていないようだ。ただ、ところどころに特徴的な点もみえる。例えば、「空いている時間を活用できるから」を動機に挙げた人は、問題点として「とくにない」と答える割合が29.7%と高い。無理に仕事を続けなくてもよい気軽さがあるからかもしれない。「育児や介護をするために必要だったから」を動機に挙げた人は、問題点として「けがや病気の際の対応」と答える割合が23.1%と高い。これは、仕事だけでなく生活でも替えが利かない、休むことができない、といったプレッシャーがあるからではないだろうか。

そして「適当な勤め先がなかったから」を動機に挙げた不本意型フリーランスについても確認しておこう。実は、結論からいうと、特徴的なところはあまりない。フリーランス全体と比較してみると、多くの項目で少しずつ上回っている程度で、突出して高い項目があるわけではなかった。

次に、表-9で、事業を行ううえで望ましい支援策をみると、フリーランス全体では、「けがや病気などで働けないときの所得補償制度の充実」が42.6%と最も高く、「健康診断・人間ドックの受診に対する補助」(34.0%)と続いている。自

分の身一つで仕事をしているため、万が一のときは、仕事が止まり、それに伴い収入もなくなってしまう<sup>15</sup>。その状況への不安が表れている。

3番目は、「とくにない」(27.0%)だった。経営上の問題点をみた前掲表-8で「とくにない」の割合が高かったこととも符合する結果といえる。

以下、「税務・法律関連の相談制度の充実」(24.8%)、「融資制度の充実等、事業資金の調達に関する支援」(24.7%)、「技術やスキルなどを向上させる機会の充実」(15.0%)などと続く。

開業動機別でみても、経営上の問題点同様、大まかな傾向はフリーランス全体と違いはない。ただ、「育児や介護をするために必要だったから」を動機に挙げた人は、「育児・保育士制度を使いやすくする」(28.2%)や「同業者と交流できるネットワーク等の整備」(28.2%)など多くの項目でフリーランス全体を大きく上回っている。子どもを認可保育園に預けようとした場合、自治体によっては、自営業者は勤務者に比べて、選考基準となる点数換算で不利になるケースがある。その結果、保育園に子どもを通わせることができなかった人にとっては、育児をするためにフリーランスを選んだら育児の支援が受けにくくなる、ということに不条理を感じているのかもしれない。

ほかに目立つのは、「事業経営という仕事に興味があったから」を動機に挙げた人は、「融資制度の充実等、事業資金の調達に関する支援」(46.0%)や「税務・法律関連の相談制度の充実」(41.0%)、「技術やスキルなどを向上させる機会の充実」(25.0%)、「同業者と交流できるネットワーク等の整備」(25.0%)などを回答する割合が目立って高い。ビジネスとしての競争力を高めようとするスタンスが強いからだと思われる。

<sup>14</sup> 調査対象は、原則従業者20人未満の企業1万社。

<sup>15</sup> 最近では、フリーランスを対象とした所得補償や傷害補償をうたった保険も登場している。

表－9 事業を行ううえで望ましい支援策（フリーランスのみ、開業動機別、複数回答）

（単位：％）

		n値	所得補償制度の充実 けがや病気などで働けないときの	健康診断・人間ドックの受診に対する補助	税務・法律関連の相談制度の充実	融資制度の充実等、事業資金の調達 に関する支援	技術やスキルなどを向上させる機会の充実	同業者と交流できるネットワーク等の整備	発注者や仕事の仲介会社、クラウドソーシング業者に対するルールや規制の明確化	納期遅延や情報漏えいなどの賠償リスクに 対する保険制度の創設	育児・保育士制度を使いやすくする	支払うことに関するルールの明確化 コンペ等の提案書作成コストへ対価を	シェアオフィス・コワーキングスペース などの充実	その他	とくにない
フリーランス全体		985	42.6	34.0	24.8	24.7	15.0	14.4	8.7	6.3	4.3	4.3	4.1	0.8	27.0
収入 関連	収入を増やしたかったから	210	50.0	42.4	34.3	31.4	18.1	14.8	12.9	6.2	5.2	5.7	5.2	0.0	17.1
	自分が自由に使える収入が 欲しかったから	99	44.4	37.4	29.3	32.3	18.2	21.2	13.1	5.1	8.1	4.0	7.1	0.0	22.2
仕事 関連	自分の思いどおりに仕事を したかったから	452	47.1	37.4	27.0	28.3	18.1	15.5	10.8	7.3	5.3	6.0	5.8	0.2	23.7
	自分の経験・知識や資格を 生かしたかったから	321	49.2	37.7	29.6	27.1	20.6	18.4	13.4	7.5	4.0	6.9	5.6	0.9	19.6
	自分の技術やアイデアを 事業化したかったから	158	50.6	38.6	27.2	32.9	25.9	24.7	11.4	6.3	3.2	4.4	5.1	1.3	18.4
	事業経営という仕事に 興味があったから	100	49.0	40.0	41.0	46.0	25.0	25.0	13.0	7.0	5.0	4.0	10.0	0.0	19.0
	事業を承継することにな ったから	28	42.9	21.4	25.0	35.7	14.3	10.7	10.7	10.7	3.6	7.1	0.0	7.1	25.0
生活 関連	時間的に余裕のある生活が したかったから	188	48.4	39.9	28.2	26.6	21.8	17.6	11.2	7.4	6.4	6.9	6.9	0.5	22.3
	個人の生活を優先 したかったから	180	52.2	43.9	28.3	30.0	23.3	20.6	14.4	9.4	6.1	7.2	6.1	0.6	19.4
	自分の趣味や特技を 生かしたかったから	134	53.0	43.3	27.6	37.3	22.4	23.1	13.4	9.0	7.5	9.0	6.7	0.0	19.4
	自分や家族の健康上の 問題から	74	58.1	43.2	36.5	32.4	21.6	23.0	17.6	14.9	5.4	4.1	5.4	0.0	16.2
	空いている時間を 活用できるから	74	41.9	33.8	28.4	31.1	17.6	21.6	9.5	8.1	6.8	2.7	5.4	0.0	29.7
	転職がないから	60	58.3	41.7	30.0	31.7	16.7	21.7	13.3	10.0	3.3	6.7	6.7	0.0	20.0
その 他	育児や介護をするために 必要だったから	39	51.3	48.7	43.6	33.3	23.1	28.2	23.1	12.8	28.2	12.8	7.7	0.0	25.6
	適当な勤め先が なかったから	165	49.7	37.6	28.5	26.1	11.5	16.4	12.1	10.9	3.6	4.2	7.3	1.2	29.1
	その他	23	30.4	26.1	26.1	34.8	13.0	13.0	8.7	0.0	4.3	4.3	8.7	0.0	26.1

そして、不本意型フリーランスについても確認しておく、こちらも経営上の問題点同様、あまり目立った箇所はなかった。取り立てて深刻な問題を抱えているとは認識していないため、支援策についても、特定のニーズがあるわけではないようだ。もっとも、多くの項目でフリーランス全体を上回っている点は見逃してはなるまい。

## (2) パフォーマンスに関する分析結果

### ① フリーランスの収入は本当に少ないのか

次に、パフォーマンスに関する分析結果に移ろう。ねらいで述べたとおり、本稿ではパフォーマンスを測る指標として、収入を用いる。論点は、二つであった。一つ目は、働き方や属性をコントロール

してもなお、フリーランスの収入が相対的に少ないといえるのか、という点である。

分析結果は、表-10のようになった。企業規模のダミー変数をみると、「フリーランス」は有意にマイナス、「正社員5~19人」は有意にプラスとなった。年齢、性別などの属性や、労働時間などをコントロールしても、やはりフリーランスは収入が少ない。

他の変数もみておくと、「主たる家計維持者」や「小学生」は有意にプラスとなった。「女性」や「年齢」は有意ではなかった。男女の別なく、家計を支えたり子どもを養ったりする以上は稼がなければ食べていけない。そのプレッシャーが稼ぎに影響するのだろう。「職住近接」は有意にマイナスとなった。自宅で働いていると、同じ時間働いても、家事や育児など他の用事に手を取られ、仕事に集中しきれないのかもしれない。

直前の職業では、「無職」のみ有意にマイナスとなった。必ずしも業歴の浅い企業ばかりではないが、無職だったことのハンディは、その後のパフォーマンスに影響を与えるとわかる。一方、「斯業経験」は有意ではなかった。鈴木(2012)は、新規開業企業に関して、斯業経験年数が黒字確率にプラスの影響を与えるのは開業2年目までで、3年目以降はその効果が消滅すると明らかにした。本稿で用いたサンプルは業歴の長い企業も多く含まれていることから、プラスの効果が薄れているのかもしれない<sup>16</sup>。

## ② 何が収入の多寡に影響を与えるのか

パフォーマンスに関する二つ目の論点は、何が収入の多寡に影響を与えるのか、である。フリーランスは収入が少ないとしても、なかには多くの

収入を得ている人もいる。だとすれば、その違いはどこから生まれるのか。

分析結果は、表-11のようになった。属性については表-10で触れているためコメントを省略し、開業動機と競争力に関する指標について確認しよう。フリーランスの「開業動機」ダミーをみると、「個人の生活を優先したかったから」と「育児や介護をするために必要だったから」が有意にマイナスとなった。私生活と仕事に振り向けるエネルギーは、トレードオフの関係にあるわけだ。なお、「適当な勤め先がなかったから」は、非有意であった。不本意ながらフリーランスの道を選んだのだとしても、収入が減るわけではないのは注目に値する。

開業動機と収入のクロス集計の結果を示した前掲表-5で、収入関連や仕事関連の動機を挙げた人は比較的多くの収入を得ており、生活関連の動機を挙げた人の収入は少ない傾向にあると説明した。確かにここでも生活関連の動機で収入にマイナスという結果が出たが、収入関連や仕事関連の動機が収入にプラスという結果は出なかった。これは、労働時間をコントロールしたためである。つまり、収入を増やそうとか、仕事にやりがいを感じるといった人は、より長く働き、結果として高収入を得ていたのだと解釈できる。

競争力に関する指標についてみると、「同業者と比べて価格が安い」はマイナスとなった。仮説を支持する結果である。価格と数量の関係を示した需要曲線からすると、価格の引き下げは需要を喚起する。しかし、フリーランスの場合は、あくまで一人で稼働するため<sup>17</sup>、供給力を増やす余地は少ない。結果として、価格の低下は売り上げを減少させる方向に働くのだろう。実際、正社員1~

<sup>16</sup> ただし、正社員1~4人では有意にプラスとなっている。斯業経験とパフォーマンスの関係については、もう少し分析が必要かもしれない。

<sup>17</sup> 本人のほかに家族従業員や非正社員を雇用しているケースもあるが、少数派にすぎない。フリーランスの従業者数をみると、「1人(自分のみ)」が86.5%、「2人」が10.5%で、3人以上は3.0%であった。



表-10 収入の決定要因に関する推計 (モデル1)

推計モデル：順序プロビットモデル		全 体	
被説明変数		収 入 (9カテゴリー)	
企業規模	フリーランス (該当 = 1、非該当 = 0)	-0.421 ***	
	正社員 1 ~ 4 人 (同上)	(参照変数)	
	正社員 5 ~ 19人 (同上)	0.533 ***	
属 性	女性 (該当 = 1、非該当 = 0)	-0.092	
	年齢 (対数)	0.027	
	主たる家計維持者 (該当 = 1、非該当 = 0)	0.327 ***	
	家族構成	配偶者 (有 = 1、無 = 0)	0.098
		未就学児 (同上)	-0.160
		小学生 (同上)	0.249 *
		要介護家族 (同上)	-0.133
	職住近接 (該当 = 1、非該当 = 0)	-0.130 *	
	業歴 (対数)	0.056	
	斯業経験 (有 = 1、無 = 0)	0.112	
	直前の職業	会社や団体の常勤役員 (該当 = 1、非該当 = 0)	-0.037
		会社や官公庁・団体の正社員・正職員 (同上)	(参照変数)
		パート・アルバイト (同上)	-0.194
		派遣社員 (同上)	-0.489
		契約社員 (同上)	-0.127
		家族従業員 (同上)	-0.225
		自営業主・企業経営者 (同上)	-0.058
		学生 (同上)	-0.251
		専業主婦・主夫 (同上)	-0.232
		無職 (同上)	-0.808 ***
その他 (同上)		-1.052	
労働時間		5 時間未満 (該当 = 1、非該当 = 0)	-1.493 ***
	5 時間以上10時間未満 (同上)	-0.886 ***	
	10時間以上15時間未満 (同上)	-0.746 ***	
	15時間以上20時間未満 (同上)	-0.794 ***	
	20時間以上30時間未満 (同上)	-0.628 ***	
	30時間以上40時間未満 (同上)	-0.248 *	
	40時間以上50時間未満 (同上)	-0.104	
	50時間以上60時間未満 (同上)	-0.079	
	60時間以上 (同上)	(参照変数)	
閾値 1	-1.763		
閾値 2	-1.414		
閾値 3	-1.115		
閾値 4	-0.825		
閾値 5	-0.481		
閾値 6	0.227		
閾値 7	1.066		
閾値 8	1.485		
疑似決定係数	0.104		
観測数	986		

(注) 1 表-7の(注)1、2に同じ。

2 被説明変数の「収入」は、表-7の説明変数に用いた「収入」の9カテゴリーと同じもの。

表-11 収入の決定要因に関する推計 (モデル2)

推計モデル：順序プロビットモデル		フリー ランス	正社員 1～4人	正社員 5～19人	
被説明変数		収入 (9 カテゴリー)			
属 性	女性 (該当 = 1、非該当 = 0)	-0.026	-0.688	0.689	
	年齢 (対数)	0.204	1.308	-1.228	
	主たる家計維持者 (該当 = 1、非該当 = 0)	0.335 ***	0.164	0.064	
	家族構成	配偶者 (有 = 1、無 = 0)	0.120	-0.139	0.188
		未就学児 (同上)	-0.246	-0.119	-0.534
		小学生 (同上)	0.250	0.494	0.775 *
		要介護家族 (同上)	-0.112	-0.431	-0.470
	職住近接 (該当 = 1、非該当 = 0)	-0.106	-0.224	0.006	
	業歴 (対数)	0.029	0.260 *	0.177	
	斯業経験 (有 = 1、無 = 0)	0.046	0.653 ***	0.121	
	直前の職業	会社や団体の常勤役員 (該当 = 1、非該当 = 0)	-0.178	-0.140	0.077
		会社や官公庁・団体の正社員・正職員 (同上)	(参照変数)	(参照変数)	(参照変数)
		パート・アルバイト (同上)	-0.202	0.061	-0.346
		派遣社員 (同上)	-0.516 **		-0.476
		契約社員 (同上)	-0.191	0.114	0.219
		家族従業員 (同上)	-0.117	-0.434	-0.001
		自営業主・企業経営者 (同上)	-0.059	-0.603 **	0.090
		学生 (同上)	-0.241	-2.255 **	-0.463
		専業主婦・主夫 (同上)	-0.151		-1.401
		無職 (同上)	-1.191 ***	0.603	
その他 (同上)	-1.324		-0.994		
競争力に 関する指標	同業者と比べて価格が安い (該当 = 1、非該当 = 0)	-0.319 ***	0.070	-0.288	
	同業者と比べて品質や納期などに特徴がある (同上)	0.137	0.132	0.145	
	人脈は豊富である (同上)	0.337 ***	0.856 ***	0.423 *	
労働時間	5時間未満 (該当 = 1、非該当 = 0)	-1.535 ***	-1.433 ***	-2.576 ***	
	5時間以上10時間未満 (同上)	-1.088 ***	-0.516	-0.335	
	10時間以上15時間未満 (同上)	-0.766 ***	-0.625	-1.067 *	
	15時間以上20時間未満 (同上)	-0.712 ***	-1.790 ***	-1.951 ***	
	20時間以上30時間未満 (同上)	-0.681 ***	-0.098	-0.928	
	30時間以上40時間未満 (同上)	-0.406 **	-0.026	-0.125	
	40時間以上50時間未満 (同上)	-0.120	-0.178	0.209	
	50時間以上60時間未満 (同上)	0.049	-0.095	-0.194	
60時間以上 (同上)	(参照変数)	(参照変数)	(参照変数)		
開業動機	収入を増やしたかったから (該当 = 1、非該当 = 0)	0.088	0.545 **	-0.271	
	自分が自由に使える収入が欲しかったから (同上)	0.009	0.001	-0.559	
	仕事の経験・知識や資格を生かしたかったから (同上)	-0.033	-0.911 ***	0.235	
	自分の技術やアイデアを事業化したかったから (同上)	-0.134	-0.563 **	0.168	
	事業経営という仕事に興味があったから (同上)	-0.026	0.241	-0.283	
	自分の思いどおりに仕事をしたかったから (同上)	0.007	-0.101	0.013	
	事業を承継することになったから (同上)	0.086	1.653 *	-0.017	
	転勤がないから (同上)	0.023	-0.328	-0.727 *	
	時間的に余裕のある生活がしたかったから (同上)	0.113	-0.349	0.380	
	個人の生活を優先したかったから (同上)	-0.280 **	0.629 *	0.058	
	自分の趣味や特技を生かしたかったから (同上)	0.187	1.107 ***	0.230	
	育児や介護をするために必要だったから (同上)	-0.364 *	-0.005	-0.506	
	自分や家族の健康上の問題から (同上)	-0.060	-0.653	-0.488	
	適当な勤め先がなかったから (同上)	-0.105	0.164	-0.272	
	空いている時間を活用できるから (同上)	0.360 **	0.172	1.117 **	
その他 (同上)	0.098	-1.312 *	-0.108		
閾値 1	-0.783	3.781	-6.979		
閾値 2	-0.401	4.167	-6.631		
閾値 3	-0.094	4.479	-6.134		
閾値 4	0.249	4.740	-5.929		
閾値 5	0.672	5.074	-5.835		
閾値 6	1.491	6.043	-5.385		
閾値 7	2.469	7.207	-4.512		
閾値 8	2.988	7.722	-4.017		
疑似決定係数	0.106	0.180	0.145		
観測数	661	160	165		

(注) 表-7の(注)1、2、表-10の(注)2に同じ。

4人や正社員5～19人では非有意であった。価格を下げた分、供給量を増やすことができているようだ。

「同業者と比べて品質や納期などに特徴がある」は有意ではなかった。本当に何らかの特徴があって差別化がなされていれば、パフォーマンスは高まってもおかしくない。そうっていないのは、本人が「特徴がある」と思っている、取引相手がそう評価してくれていないのかもしれない。あるいは、多少の特徴くらいでは、明らかに収入を増やすところまでには至らないのかもしれない。

「人脈は豊富である」は有意にプラスとなった。これは、フリーランスだけでなく、正社員1～4人、正社員5～19人にも共通する結果である。小規模な企業が経営資源をカバーするうえで、人的ネットワークが重要であることを示唆している。

フリーランスと正社員雇用企業の違いについても触れておく。「労働時間」をみると、いずれの規模も労働時間が短くなるほど収入は減る関係にあるが、正社員雇用企業は、20時間以上では有意とならなかった。経営者の労働時間が多少短くなっても、従業員がいる企業であれば、そのまま供給能力の低下に直結するわけではない。

## 6 結論と政策的含意

本稿では、日本政策金融公庫総合研究所が2017年に実施したアンケートの結果を用いて、フリーランスの開業動機とパフォーマンスについて分析を行った。とりわけ注目したのは、「自律性の射程外」にある不本意型フリーランスの実態と、フリーランス全般における収入の水準であった。明らかになった点を以下にまとめる。

まず、開業動機についてである。フリーランスの開業動機は、収入や仕事、生活など多様であるが、「適当な勤め先がなかったから」という不本意型も2割弱を占める。働きがいや生きがいを得

るため自発的にその道を選んだ人はもちろん、適した働き口のみつからない人にとっても、生きる糧を得るための手段になるという点において、フリーランスは重要な役割を果たしている。

不本意型については、職業決定の段階で非自律的選択を下しているため、満足度は低い傾向にある。それでも、収入は他のフリーランスと比べて遜色ない事実を考え合わせれば、少なくとも生活を維持するための収入確保の手段の一つとして十分機能していると評価できよう。

また、不本意か否かで、抱える問題点や望む支援策に大きな違いはみられなかった。不本意型といってもまた一様ではなく、一律にケアするのは困難だ。政策により支援するのであれば、具体的な個々のニーズ、例えば育児・介護と仕事の両立や、けが・病気の際の補償などへの対応が現実的な選択肢となるだろう。

次に、もう一つの論点であった収入についてである。属性や労働時間などを一定にそろえてもなお、フリーランスは正社員雇用企業に比べて、収入が少ない傾向にある。働く時間や場所はある程度思いどおりになるが、収入ばかりは自在に増やすというわけにはいかない。ただし、本稿の分析により、収入の多寡に影響を与える要素がいくつか確認された。販売価格の安さはマイナスに、人的ネットワークはプラスに、それぞれ効いている。

この結果から得られる知見は、次のようなものである。販売価格については、進んで低価格戦略を採るのは得策ではない。一方で、元請けから不利な契約条件を強いられる事態が観察される場合は、何らかの保護が必要となるだろう。

人的ネットワークを広げるには、閉鎖的な取引関係を続けるだけでなく、意識的に新たな取引関係を模索することも有効だ。Mitchell, Levin, and Krumboltz (1999) が「計画的偶発性理論」で提唱するような、偶然の出会いを計画的に引き起こすための仕掛けとして、業界の垣根を越えた

交流の場が機能することが望ましい。

副業解禁や企業側のアウトソーシングの推進などによって、今後、フリーランスは業界、分野、年齢、性別を問わず、広がりを見せていくことだろう。組織が守ってくれた時代から、個の時代、自己責任の時代へ。フリーランスはその象徴ともいえる自律性の高い働き方ではあるが、いうまで

もなく、すべてが思いどおりにいく魔法の杖ではない。思うに任せない状況を自己責任の一言で片付けるのではなく、あるいは一律に手厚く保護するのでもなく、個々の状況に応じて適時適切に支援を受けることのできる、セーフティネットのような支援のあり方をデザインしていくことが求められている。

<参考文献>

- 玄田有史・川上淳之 (2004) 「自己雇用『成功』の秘訣－カギは『固定的な顧客関係』にあり－」 国民生活金融公庫総合研究所編『自営業再考－自ら働く場を創出する「自己雇用者」－』中小企業リサーチセンター、pp.95-127
- 玄田有史・高橋陽子 (2003) 「自己雇用者の現在と可能性」 国民生活金融公庫総合研究所『調査季報』第64号、pp.1-27
- 公正取引委員会 (2018) 「人材と競争政策に関する検討会報告書」(公正取引委員会ホームページ)
- 厚生労働省 (2018) 「『雇用類似の働き方に関する検討会』報告書」(厚生労働省ホームページ)
- 後藤康雄 (2014) 『中小企業のマクロ・パフォーマンス－日本経済への寄与度を解明する』日本経済新聞出版社
- 周燕飛 (2006) 「個人請負の労働実態と就業選択の決定要因」 日本経済研究センター『日本経済研究』No.54、pp.63-89
- 鈴木正明 (2012) 『新規開業企業の軌跡－パネルデータにみる業績、資源、意識の変化』勁草書房
- 中小企業庁編 (2015) 『2015年版 小規模企業白書』日経印刷
- 藤井辰紀・村上義昭 (2018) 「なぜ今、フリーランスなのか－雇われずに働くという選択－」 日本政策金融公庫総合研究所『調査月報』No.118、pp.4-15
- 武士俣友生 (2007) 「小企業の景況は回復しているか－『全国小企業動向調査』の見方と解釈」 国民生活金融公庫総合研究所『調査月報』No.551、pp.4-15
- プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会 (2018) 「プロフェッショナルな働き方・フリーランス白書2018」(プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会ホームページ)
- 本庄裕司 (2005) 「新規開業企業のパフォーマンス」 忽那憲治・安田武彦編著『日本の新規開業企業』白桃書房、pp.75-99
- (2007) 「中小企業の成長」 安田武彦・高橋徳行・忽那憲治・本庄裕司『テキスト ライフサイクルから見た中小企業論』同友館、pp.89-117
- 山本勲 (2011) 「非正規労働者の希望と現実－不本意型非正規雇用の実態－」 独立行政法人経済産業研究所『RIETI Discussion Paper Series』11-J-052
- 労働政策研究・研修機構 (2018) 「『独立自営業者の就業実態と意識に関する調査』速報」(労働政策研究・研修機構ホームページ)
- Mangan, J. (2000) *Workers without Traditional Employment*, Edward Elgar.
- Mitchell, Kathleen E., Al S. Levin, and John D. Krumboltz (1999) "Planned Happenstance: Constructing Unexpected Career Opportunities," *Journal of Counseling & Development*, Vol. 77, pp.115-124.
- Mulcahy, Diane (2016) *THE GIG ECONOMY: The Complete Guide to Getting Better Work, Taking More Time Off, and Financing the Life You Want*, Amacom Books. (門脇弘典訳 (2017) 『ギグ・エコノミー』日経BP社)
- Pink, Daniel H. (2001) *FREE AGENT NATION*, Grand Central Publishing. (池村千秋訳 (2002) 『フリーエージェント社会の到来－「雇われない生き方」は何を変えるか』ダイヤモンド社)



参考表－1 フリーランスの満足度に関する推計（表－7）にかかる基本統計量

		度 数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	
属 性	女性（該当 = 1、非該当 = 0）	988	0.126	0.331	0	1	
	年齢（対数）	988	3.958	0.184	3.135	4.382	
	主たる家計維持者（該当 = 1、非該当 = 0）	988	0.809	0.394	0	1	
	家族構成	配偶者（有 = 1、無 = 0）	988	0.563	0.496	0	1
		未就学児（同上）	988	0.061	0.239	0	1
		小学生（同上）	988	0.066	0.248	0	1
		要介護家族（同上）	988	0.127	0.333	0	1
	職住近接（該当 = 1、非該当 = 0）	988	0.753	0.431	0	1	
	業歴（対数）	988	2.487	0.889	0.000	3.912	
	直前の職業	会社や団体の常勤役員（該当 = 1、非該当 = 0）	976	0.094	0.292	0	1
		会社や官公庁・団体の正社員・正職員（同上）	976	0.499	0.500	0	1
		パート・アルバイト（同上）	976	0.079	0.270	0	1
		派遣社員（同上）	976	0.031	0.173	0	1
		契約社員（同上）	976	0.057	0.233	0	1
		家族従業員（同上）	976	0.035	0.183	0	1
		自営業主・企業経営者（同上）	976	0.126	0.332	0	1
		学生（同上）	976	0.042	0.201	0	1
		専業主婦・主夫（同上）	976	0.009	0.096	0	1
		無職（同上）	976	0.026	0.158	0	1
		その他（同上）	976	0.001	0.032	0	1
労働条件		取 入	25万円未満（該当 = 1、非該当 = 0）	690	0.142	0.349	0
	25万円以上50万円未満（同上）		690	0.080	0.271	0	1
	50万円以上100万円未満（同上）		690	0.083	0.275	0	1
	100万円以上200万円未満（同上）		690	0.097	0.296	0	1
	200万円以上300万円未満（同上）		690	0.128	0.334	0	1
	300万円以上500万円未満（同上）		690	0.233	0.423	0	1
	500万円以上800万円未満（同上）		690	0.172	0.378	0	1
	800万円以上1,000万円未満（同上）		690	0.041	0.197	0	1
	1,000万円以上（同上）		690	0.025	0.155	0	1
	労働時間	5時間未満（該当 = 1、非該当 = 0）	988	0.092	0.289	0	1
		5時間以上10時間未満（同上）	988	0.137	0.344	0	1
		10時間以上15時間未満（同上）	988	0.062	0.241	0	1
		15時間以上20時間未満（同上）	988	0.039	0.195	0	1
		20時間以上30時間未満（同上）	988	0.099	0.299	0	1
		30時間以上40時間未満（同上）	988	0.166	0.372	0	1
		40時間以上50時間未満（同上）	988	0.184	0.388	0	1
		50時間以上60時間未満（同上）	988	0.104	0.306	0	1
		60時間以上（同上）	988	0.116	0.321	0	1
開業動機	収入を増やしたかったから（該当 = 1、非該当 = 0）	988	0.213	0.409	0	1	
	自分が自由に使える収入が欲しかったから（同上）	988	0.100	0.300	0	1	
	仕事の経験・知識や資格を生かしたかったから（同上）	988	0.325	0.469	0	1	
	自分の技術やアイデアを事業化したかったから（同上）	988	0.160	0.367	0	1	
	事業経営という仕事に興味があったから（同上）	988	0.101	0.302	0	1	
	自分の思いどおりに仕事をしたかったから（同上）	988	0.459	0.499	0	1	
	事業を承継することになったから（同上）	988	0.061	0.239	0	1	
	転勤がないから（同上）	988	0.191	0.394	0	1	
	時間的に余裕のある生活がしたかったから（同上）	988	0.183	0.387	0	1	
	個人の生活を優先したかったから（同上）	988	0.136	0.343	0	1	
	自分の趣味や特技を生かしたかったから（同上）	988	0.039	0.195	0	1	
	育児や介護をするために必要だったから（同上）	988	0.075	0.263	0	1	
	自分や家族の健康上の問題から（同上）	988	0.168	0.374	0	1	
	適当な勤め先がなかったから（同上）	988	0.075	0.263	0	1	
	空いている時間を活用できるから（同上）	988	0.023	0.151	0	1	
	その他（同上）	988	0.029	0.169	0	1	

参考表-2 収入の決定要因に関する推計 (表-10) にかかる基本統計量

		度 数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	
企業規模	フリーランス (該当 = 1、非該当 = 0)	1,477	0.669	0.471	0	1	
	正社員 1 ~ 4 人 (同上)	1,477	0.165	0.371	0	1	
	正社員 5 ~ 19人 (同上)	1,477	0.166	0.372	0	1	
属 性	女性 (該当 = 1、非該当 = 0)	1,477	0.108	0.310	0	1	
	年齢 (対数)	1,477	3.971	0.177	3.135	4.394	
	主たる家計維持者 (該当 = 1、非該当 = 0)	1,477	0.838	0.369	0	1	
	家族構成	配偶者 (有 = 1、無 = 0)	1,477	0.615	0.487	0	1
		未就学児 (同上)	1,477	0.062	0.241	0	1
		小学生 (同上)	1,477	0.067	0.250	0	1
		要介護家族 (同上)	1,477	0.137	0.344	0	1
	職住近接 (該当 = 1、非該当 = 0)	1,477	0.647	0.478	0	1	
	業歴 (対数)	1,477	2.578	0.884	0.000	3.912	
	斯業経験 (有 = 1、無 = 0)	1,477	0.516	0.500	0	1	
	直前の職業	会社や団体の常勤役員 (該当 = 1、非該当 = 0)	1,465	0.137	0.343	0	1
		会社や官公庁・団体の正社員・正職員 (同上)	1,465	0.484	0.500	0	1
		パート・アルバイト (同上)	1,465	0.072	0.258	0	1
		派遣社員 (同上)	1,465	0.023	0.151	0	1
		契約社員 (同上)	1,465	0.047	0.212	0	1
		家族従業員 (同上)	1,465	0.038	0.190	0	1
		自営業主・企業経営者 (同上)	1,465	0.130	0.336	0	1
		学生 (同上)	1,465	0.039	0.193	0	1
		専業主婦・主夫 (同上)	1,465	0.008	0.090	0	1
		無職 (同上)	1,465	0.021	0.144	0	1
その他 (同上)	1,465	0.001	0.037	0	1		
労働時間	5 時間未満 (該当 = 1、非該当 = 0)	1,477	0.079	0.270	0	1	
	5 時間以上10時間未満 (同上)	1,477	0.129	0.336	0	1	
	10時間以上15時間未満 (同上)	1,477	0.058	0.233	0	1	
	15時間以上20時間未満 (同上)	1,477	0.040	0.196	0	1	
	20時間以上30時間未満 (同上)	1,477	0.091	0.288	0	1	
	30時間以上40時間未満 (同上)	1,477	0.162	0.369	0	1	
	40時間以上50時間未満 (同上)	1,477	0.205	0.404	0	1	
	50時間以上60時間未満 (同上)	1,477	0.114	0.318	0	1	
	60時間以上 (同上)	1,477	0.121	0.326	0	1	

参考表-3 収入の決定要因に関する推計(表-11)にかかると基本統計量

(1) フリーランス

		度 数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	
属 性	女性(該当=1、非該当=0)	988	0.126	0.331	0	1	
	年齢(対数)	988	3.958	0.184	3.135	4.382	
	主たる家計維持者(該当=1、非該当=0)	988	0.809	0.394	0	1	
	家族構成	配偶者(有=1、無=0)	988	0.563	0.496	0	1
		未就学児(同上)	988	0.061	0.239	0	1
		小学生(同上)	988	0.066	0.248	0	1
		要介護家族(同上)	988	0.127	0.333	0	1
	職住近接(該当=1、非該当=0)	988	0.753	0.431	0	1	
	業歴(対数)	988	2.487	0.889	0.000	3.912	
	斯業経験(有=1、無=0)	988	0.540	0.499	0	1	
	直前の職業	会社や団体の常勤役員(該当=1、非該当=0)	976	0.094	0.292	0	1
		会社や官公庁・団体の正社員・正職員(同上)	976	0.499	0.500	0	1
		パート・アルバイト(同上)	976	0.079	0.270	0	1
		派遣社員(同上)	976	0.031	0.173	0	1
		契約社員(同上)	976	0.057	0.233	0	1
		家族従業員(同上)	976	0.035	0.183	0	1
		自営業主・企業経営者(同上)	976	0.126	0.332	0	1
		学生(同上)	976	0.042	0.201	0	1
		専業主婦・主夫(同上)	976	0.009	0.096	0	1
		無職(同上)	976	0.026	0.158	0	1
その他(同上)	976	0.001	0.032	0	1		
競争力に関する指標	同業者と比べて価格が安い(該当=1、非該当=0)	988	0.511	0.500	0	1	
	同業者と比べて品質や納期などに特徴がある(同上)	988	0.507	0.500	0	1	
	人脈は豊富である(同上)	988	0.367	0.482	0	1	
労働時間	5時間未満(該当=1、非該当=0)	988	0.092	0.289	0	1	
	5時間以上10時間未満(同上)	988	0.137	0.344	0	1	
	10時間以上15時間未満(同上)	988	0.062	0.241	0	1	
	15時間以上20時間未満(同上)	988	0.039	0.195	0	1	
	20時間以上30時間未満(同上)	988	0.099	0.299	0	1	
	30時間以上40時間未満(同上)	988	0.166	0.372	0	1	
	40時間以上50時間未満(同上)	988	0.184	0.388	0	1	
	50時間以上60時間未満(同上)	988	0.104	0.306	0	1	
	60時間以上(同上)	988	0.116	0.321	0	1	
開業動機	収入を増やしたかったから(該当=1、非該当=0)	988	0.213	0.409	0	1	
	自分が自由に使える収入が欲しかったから(同上)	988	0.100	0.300	0	1	
	仕事の経験・知識や資格を生かしたかったから(同上)	988	0.325	0.469	0	1	
	自分の技術やアイデアを事業化したかったから(同上)	988	0.160	0.367	0	1	
	事業経営という仕事に興味があったから(同上)	988	0.101	0.302	0	1	
	自分の思いどおりに仕事をしたかったから(同上)	988	0.459	0.499	0	1	
	事業を承継することになったから(同上)	988	0.061	0.239	0	1	
	転勤がないから(同上)	988	0.191	0.394	0	1	
	時間的に余裕のある生活がしたかったから(同上)	988	0.183	0.387	0	1	
	個人の生活を優先したかったから(同上)	988	0.136	0.343	0	1	
	自分の趣味や特技を生かしたかったから(同上)	988	0.039	0.195	0	1	
	育児や介護をするために必要だったから(同上)	988	0.075	0.263	0	1	
	自分や家族の健康上の問題から(同上)	988	0.168	0.374	0	1	
	適当な勤め先がなかったから(同上)	988	0.075	0.263	0	1	
	空いている時間を活用できるから(同上)	988	0.023	0.151	0	1	
	その他(同上)	988	0.029	0.169	0	1	

(2) 正社員1～4人

		度数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	
属性	女性 (該当 = 1、非該当 = 0)	244	0.090	0.287	0	1	
	年齢 (対数)	244	4.004	0.165	3.466	4.394	
	主たる家計維持者 (該当 = 1、非該当 = 0)	244	0.865	0.343	0	1	
	家族構成	配偶者 (有 = 1、無 = 0)	244	0.693	0.462	0	1
		未就学児 (同上)	244	0.045	0.208	0	1
		小学生 (同上)	244	0.053	0.225	0	1
		要介護家族 (同上)	244	0.176	0.382	0	1
	職住近接 (該当 = 1、非該当 = 0)	244	0.578	0.495	0	1	
	業歴 (対数)	244	2.763	0.826	0.000	3.912	
	斯業経験 (有 = 1、無 = 0)	244	0.471	0.500	0	1	
	直前の職業	会社や団体の常勤役員 (該当 = 1、非該当 = 0)	244	0.176	0.382	0	1
		会社や官公庁・団体の正社員・正職員 (同上)	244	0.459	0.499	0	1
		パート・アルバイト (同上)	244	0.074	0.262	0	1
		派遣社員 (同上)	244	0.008	0.090	0	1
		契約社員 (同上)	244	0.025	0.155	0	1
		家族従業員 (同上)	244	0.041	0.199	0	1
		自営業主・企業経営者 (同上)	244	0.168	0.375	0	1
		学生 (同上)	244	0.016	0.127	0	1
		専業主婦・主夫 (同上)	244	0.008	0.090	0	1
		無職 (同上)	244	0.025	0.155	0	1
その他 (同上)		-	-	-	-	-	
競争力に関する指標	同業者と比べて価格が安い (該当 = 1、非該当 = 0)	244	0.533	0.500	0	1	
	同業者と比べて品質や納期などに特徴がある (同上)	244	0.680	0.467	0	1	
	人脈は豊富である (同上)	244	0.561	0.497	0	1	
労働時間	5時間未満 (該当 = 1、非該当 = 0)	244	0.057	0.233	0	1	
	5時間以上10時間未満 (同上)	244	0.127	0.334	0	1	
	10時間以上15時間未満 (同上)	244	0.061	0.241	0	1	
	15時間以上20時間未満 (同上)	244	0.057	0.233	0	1	
	20時間以上30時間未満 (同上)	244	0.078	0.269	0	1	
	30時間以上40時間未満 (同上)	244	0.168	0.375	0	1	
	40時間以上50時間未満 (同上)	244	0.230	0.421	0	1	
	50時間以上60時間未満 (同上)	244	0.115	0.319	0	1	
	60時間以上 (同上)	244	0.107	0.309	0	1	
開業動機	収入を増やしたかったから (該当 = 1、非該当 = 0)	244	0.270	0.445	0	1	
	自分が自由に使える収入が欲しかったから (同上)	244	0.107	0.309	0	1	
	仕事の経験・知識や資格を生かしたかったから (同上)	244	0.369	0.483	0	1	
	自分の技術やアイデアを事業化したかったから (同上)	244	0.160	0.367	0	1	
	事業経営という仕事に興味があったから (同上)	244	0.176	0.382	0	1	
	自分の思いどおりに仕事をしたかったから (同上)	244	0.389	0.489	0	1	
	事業を承継することになったから (同上)	244	0.070	0.255	0	1	
	転勤がないから (同上)	244	0.139	0.347	0	1	
	時間的に余裕のある生活がしたかったから (同上)	244	0.127	0.334	0	1	
	個人の生活を優先したかったから (同上)	244	0.107	0.309	0	1	
	自分の趣味や特技を生かしたかったから (同上)	244	0.020	0.142	0	1	
	育児や介護をするために必要だったから (同上)	244	0.090	0.287	0	1	
	自分や家族の健康上の問題から (同上)	244	0.086	0.281	0	1	
	適当な勤め先がなかったから (同上)	244	0.061	0.241	0	1	
	空いている時間を活用できるから (同上)	244	0.020	0.142	0	1	
	その他 (同上)	244	0.029	0.167	0	1	



## (3) 正社員5～19人

		度数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	
属性	女性（該当 = 1、非該当 = 0）	245	0.053	0.225	0	1	
	年齢（対数）	245	3.990	0.152	3.434	4.317	
	主たる家計維持者（該当 = 1、非該当 = 0）	245	0.927	0.261	0	1	
	家族構成	配偶者（有 = 1、無 = 0）	245	0.747	0.436	0	1
		未就学児（同上）	245	0.082	0.274	0	1
		小学生（同上）	245	0.086	0.281	0	1
		要介護家族（同上）	245	0.139	0.346	0	1
	職住近接（該当 = 1、非該当 = 0）	245	0.290	0.455	0	1	
	業歴（対数）	245	2.758	0.866	0.000	3.912	
	斯業経験（有 = 1、無 = 0）	245	0.461	0.500	0	1	
	直前の職業	会社や団体の常勤役員（該当 = 1、非該当 = 0）	245	0.265	0.442	0	1
		会社や官公庁・団体の正社員・正職員（同上）	245	0.449	0.498	0	1
		パート・アルバイト（同上）	245	0.041	0.198	0	1
		派遣社員（同上）	245	0.008	0.090	0	1
		契約社員（同上）	245	0.029	0.167	0	1
		家族従業員（同上）	245	0.045	0.208	0	1
		自営業主・企業経営者（同上）	245	0.106	0.309	0	1
		学生（同上）	245	0.049	0.216	0	1
		専業主婦・主夫（同上）	245	0.004	0.064	0	1
		無職（同上）	-	-	-	-	-
その他（同上）		245	0.004	0.064	0	1	
競争力に関する指標	同業者と比べて価格が安い（該当 = 1、非該当 = 0）	245	0.408	0.492	0	1	
	同業者と比べて品質や納期などに特徴がある（同上）	245	0.661	0.474	0	1	
	人脈は豊富である（同上）	245	0.682	0.467	0	1	
労働時間	5時間未満（該当 = 1、非該当 = 0）	245	0.049	0.216	0	1	
	5時間以上10時間未満（同上）	245	0.102	0.303	0	1	
	10時間以上15時間未満（同上）	245	0.037	0.188	0	1	
	15時間以上20時間未満（同上）	245	0.024	0.155	0	1	
	20時間以上30時間未満（同上）	245	0.073	0.261	0	1	
	30時間以上40時間未満（同上）	245	0.143	0.351	0	1	
	40時間以上50時間未満（同上）	245	0.265	0.442	0	1	
	50時間以上60時間未満（同上）	245	0.151	0.359	0	1	
	60時間以上（同上）	245	0.155	0.363	0	1	
開業動機	収入を増やしたかったから（該当 = 1、非該当 = 0）	245	0.286	0.453	0	1	
	自分が自由に使える収入が欲しかったから（同上）	245	0.106	0.309	0	1	
	仕事の経験・知識や資格を生かしたかったから（同上）	245	0.306	0.462	0	1	
	自分の技術やアイデアを事業化したかったから（同上）	245	0.167	0.374	0	1	
	事業経営という仕事に興味があったから（同上）	245	0.294	0.456	0	1	
	自分の思いどおりに仕事をしたかったから（同上）	245	0.343	0.476	0	1	
	事業を承継することになったから（同上）	245	0.073	0.261	0	1	
	転勤がないから（同上）	245	0.082	0.274	0	1	
	時間的に余裕のある生活がしたかったから（同上）	245	0.065	0.248	0	1	
	個人の生活を優先したかったから（同上）	245	0.069	0.255	0	1	
	自分の趣味や特技を生かしたかったから（同上）	245	0.012	0.110	0	1	
	育児や介護をするために必要だったから（同上）	245	0.041	0.198	0	1	
	自分や家族の健康上の問題から（同上）	245	0.114	0.319	0	1	
	適当な勤め先がなかったから（同上）	245	0.049	0.216	0	1	
	空いている時間を活用できるから（同上）	245	0.037	0.188	0	1	
	その他（同上）	245	0.045	0.208	0	1	